道

2 妙見祭神幸行列・綱領について
3 同窓会長・学校長挨拶
4 平成22年度 大同窓会報告
6 各支部・地区同窓会紹介
11 学年同窓会だより
16 座談会『新制八代高校開校!』
21 母校だより
25 八高史
27 頑張ってます！
28 八代だより
30 校歌について
31 同窓会決算・予算
32 行事予定・次回同窓会案内

八代中学・八代高女・八代高校
八高同窓会会報 第2号
編集・発行　熊本県立八代高等学校同窓会　平成22年11月20日発行



八代の繁栄を伝える妙見祭

妙見祭神幸行列

［国指定へ向けて］

八代城の周辺に形成された城下町「八代町」は、熊本町、川尻町、高瀬町、高橋町とともに「五か町」と呼ばれ、近隣の物資が集まり、長崎や上方への積出港として賑わいました。町の中を薩摩街道が通り、参勤交代の島津氏や幕府の役人が宿泊する「御客屋」（いわゆる本陣）や高札場（お触れを掲示する場所）などもありました。

町人文化が花開いた元禄の頃（17世紀の終わり頃）、八代町から笠鉾や獅子舞、亀蛇など、趣向を凝らし、贅を尽した出し物が奉納されるようになり、次第に豪華になっていきました。町の中には、かつて古麓城下から移ってきた人々も多く、妙見宮への崇拝の念は格別のものがありました。細川・松井両氏は、地域の結束を高めるため、祭礼を盛り立てることに心を配りました。

19世紀初め頃、松井家のお抱え絵師が描いた祭礼絵巻によって、様々な階層の人々が一体となって参加する盛大な祭りの様子を知ることができます。

明治維新以降、行列から姿を消したものもありましたが、昭和35年には、この神幸行列が熊本県の重要無形民俗文化財に指定され、さらに現在では「ふるさと創生事業」などにより神幸行列の復元や修復等が行われ、往時の豪華な行列が再現されています。



表紙……昨年の八高花馬奉納（砥崎の河原にて）



「三綱領」に込められた想い……

明治末期より大正中期にかけて生徒の訓育問題に特に力が注がれ、県下各中学校で校歌や校訓がこの頃、新しく作られています。

八代中学では大正二年度に「本校生徒訓条五ヵ条」が作られ、特に一、二年には新学期当初より教え込まれていたようです。本校初の校訓は以下の通りです。

一、廉耻を重んじ礼儀を正うすべし
二、規律を守り学業を励むべし
三、堅忍を勗め気力を練るべし
四、質素を躬し倹約を行ふべし
五、勤労を責び健康を進むべし

昭和年代の八代中学では三綱領として、「忠誠」「剛健」「進取」が掲げられ、当時の生徒の脳裏に焼きつけられていますが、この三綱領について、その起源はどうもはっきりしていません。



三綱領



八代高女校訓　清浦奎吾 書

また、八代高女でも大正六年ごろ制定され、同九年に県が中等学校長に指示された「中等教育ノ改善ニ関スル件」が契機となり以下のように改訂されました。

一、教育に関する勅語の御趣旨を奉体し、益々忠孝の大義を明にし、国民たるの志操を振起すべし
二、父母師長の命令訓誡に服従し、自己の責任を重んじ、子弟の本分を完うすべし
三、婦徳を修め、婦功を励み、特に温良、貞淑、質素、勤倹の美徳を涵養すべし
四、時代の大勢に鑑み、益々心身を鍛練し、識見を高尚にし、女子の能率を増進すべし
五、公徳を尊び、協同自治の精神を養い、益々善良なる校風を発揮すべし

戦後の混乱や八代高女との合併で延び延びになっていた昭和二十一年の「創立五十周年の記念式典」を昭和二十六年に実施したのを機に、本校の校訓・校歌を制定しようという気運が高まりました。

「校訓政策委員会」が設置され、八代中学、八代高女の校訓をもとにそれぞれの精神を生かしながら、新しい時代に適応するものをということで、数十回にも及ぶ会合を重ねながら検討が続けられ、翌二十七年四月十一日の始業式で、本校の校訓として全生徒の前で発表されました。

それが現在の本校の「三綱領」です。

『本校教育綱領』

一、誠実にして真理を愛する
一、自律を旨として協和を重んじる
一、闊達にして進取の気象を尚ぶ

以来、本校教育のバックボーンとして現在に受け継がれています。

（八高百年史より）



現在の三綱領

同窓生を結ぶ絆



会長　岡山元紀

八代高校同窓会では、会員相互の連携を緊密にして同窓生の絆をより一層深めるため、昨年、同窓会報「道」を創刊しました。

この創刊号では旧制八代中学校の卒業生、また、八代高等女学校の卒業生の座談会を掲載しました。

旧制八代中学校、高等女学校の卒業生には、中学生、女学生の頃を思い出し懐かしんでいただけたと思います。

座談会に出た女学校の卒業生の方が、音信不通だった人から同窓会報で見たと便りがきて嬉しかったと言われました。

また、旧制八代中学校を卒業された方々が、八代高校の中に開校した県立八代中学校に大変愛着を感じられ、その開校記念式典にぜひ参加したいと、数人の方が出席されました。

同窓会報「道」が各地の、各世代の同窓生を結びつけてくれたのです。

また、六月に岡山同窓会、七月には大分同窓会が設立されました。これからも、各地で八代高校同窓会が設立されることを期待しております。

この同窓会報が同窓生を結ぶ絆となるために、旧制中学校・旧制高等女学校の卒業生を初めとして、広く各年代の卒業生の記事を掲載しなければと考えております。

同窓会事務局へ情報をお寄せいただき、すばらしい同窓会報にしていきたいと願っております。

よろしくご協力をお願いいたします。



八代高校同窓会報「道」御挨拶



学校長　衞藤繁

同窓会の皆様、私はこの四月の異動で115年の伝統と歴史を誇る八高、そして創立二年目の県立八代中学校に赴任しました衞藤でございます。

入学式等様々な行事で演奏や合唱されます八高・八中校歌「道」の格調の高さに感激しています。作詞の耕治人氏の故郷八代への思いと後輩達の雄姿と成長を願う思いが込められ、上品なメロディにマッチしていて素晴らしいと思いました。

また、本校の三綱領は、先人達の八高の将来像を思い描き、社会に有為な人材を育成しようとの思いが痛烈に伝わってきます。その精神を多くの同窓生の方々が汲み取られ、球磨川の大河の流れの如く同窓生の皆様に受け継がれ、日本や世界で御活躍なさっていますことは、在校生にとって大きな誇りであり大切な手本です。まさに在校生に目指すべき「道」を示されていると感じています。このような素晴らしい伝統校に赴任しましたことを大変嬉しく思っていますとともに、更に責任の重さを深くしたところです。

この六月には関西同窓会総会及び岡山同窓会設立総会、八月末には地元八代での同窓会に出席させていただきましたが、どの会においても、多くの卒業生の皆様の母校八高に対する熱き想いや深い愛情、そして後輩たちに対する大きな期待を直に感じ、身の引き締まる思いでした。

生徒たちには、先輩方が脈々と引き継いでこられた栄光の歴史と伝統を継承させることはもちろん、将来郷土八代を担うリーダーとして、また、日本や世界で活躍するリーダーとして、社会を生き抜くための基礎知識、適正なコミュニケーション能力、粘り強く頑張り抜ける忍耐力、斬新な発想力、そして礼節を重んじ他を思いやることのできる豊かな人間性を身に付けるべく日々精進するように願っています。その願いを受けて生徒たちは粛々と努力を重ねています。

最後に、日ごろの八高に対する温かい御協力、創立二年目の八中の充実のための物心両面の御支援に対し深く感謝申し上げますとともに、同窓会の益々の御隆盛並びに会員の皆様の今後の御活躍、御健勝を御祈念申し上げます。

平成二十二年度
八代中学・八代高女・八代高校合同　同窓会総会

平成二十二年度八代高校同窓会が、「道　ー夢を追いかけて　素晴らしきかな人生ー」をテーマに、八月二十八日八代ロイヤルホテルで開催されました。当日は、記録破りの連日の猛暑にもかかわらず、六〇〇名近くの同窓生が出席し、盛会に開催されました。関東地区、関西、福岡支部、熊本市支部に加え、新しく結成された岡山同窓会から会長が参加されるなど、八高同窓会の末広がりを感じることが出来ました。



総会では、はじめに、今期が二年目となる、岡山元紀同窓会会長の挨拶、衛藤　繁(現八代高校・中学校長)名誉会長の挨拶の後、上田栄治(関東地区同窓会副会長　高二十一)宮崎正郎(関西同窓会会長　高十四)今田俊明(岡山同窓会会長　高十)佐藤好助(福岡支部同窓会会長　高十三)冨田徹也(熊本市支部同窓会会長　高十)の来賓挨拶がありました。その後平成二十一年度の行事報告や決算報告、同窓会報の状況や二十一年度の年会費の納入状況、平成二十二年度の行事予定並びに予算案など執行部提案のすべての議案が満場一致で承認されました。



講演会
「夢を追いかけた、ある女優の物語」



午後三時三十分からは記念講演会として「夢を追いかけた、ある女優の物語」を演題に、講師に八高二十八回卒で、女優の岩崎幸代さんを迎え行われました。会場は立ち見も出る大盛況で、素晴らしい講演会でした。



午後五時からの懇親会は、八高二十八回卒で組織した合唱団「チーム二十八回生」による、オープニングコンサートから始まりました。合唱曲は「ハレルヤコーラス」と「地上の星」の二曲でしたが、この日のために、五月から週二回の練習を行い、どうにか皆さんに聞かせることができる状態での演奏でした。



私たちの真剣さが伝わったのでしょうか、御出席いただいた同窓生の皆さんに、大変喜んでいただきました。今回御出席者のなかで、緒方基一さん(八代中学三十七回)と佐渡ノブ子さん(八代高女三十三回)の最長老のおふたりに、御出席のお礼と長寿を記念して、出席者一同から花束を贈呈いたしました。

大同窓会

懇親会





福島八代市長（高十三回）の乾杯のご発声のもと、懇親会が始まりました。

今回の大同窓会のテーマは「夢」。このテーマへのもう一つのアプローチとして、現役の八代中学・高校生に将来の夢を語ってもらったインタビューのビデオを上映いたしました。宴会の中ということで、音声が聞き取りづらい点もありましたが、現役生の生の声が聞けるとあって、たくさんの方に、興味深くご覧いただきました。















途中、八高同窓会花馬奉納会から活動報告があり、母校八高のため、精一杯頑張っておられることに、改めて敬意を表さずにはおられませんでした。また、八代高女卒、八代中学卒の方々による校歌の御披露があり、いつまでもお元気な同窓生の方がたの雄姿に、深く感銘を受けました。会の終盤には、次年度担当学年の高二十九回卒を代表して前川祥子さんによる決意表明の後、八高校歌「道」の大合唱が行われ、改めて、八高同窓会の一員としての誇りと素晴らしさを感じることが出来、心を打たれるものとなりました。最後に、本年度最年少出席者である高五十八回卒の堀　悟史君の元気な万歳三唱のもと、次年度の再会を期して、幕を閉めました。



二十八回生だけの学年同窓会

大同窓会終了後、担当学年の学年同窓会を八代ロイヤルホテルで開催しました。恩師の森宏先生、田中満守先生、岡田佼子先生の三名をお迎えし、会場は懐かしい顔ぶれいっぱいになり、昔話に花が咲きました。合唱団を組織して取り組んだ、全体同窓会の盛大さに心打たれ、八高同窓生でいることに改めて感動した一日でした。東京から十名の同級生も駆けつけ、二次会三次会と大変盛り上がりました。





各支部・地区同窓会からの「お便り」をご紹介します。

関東地区同窓会



十月九日土曜日、八代高校関東地区同窓会総会を開催しました。

当日はあいにくの雨でしたが、八代高女卒の三名をはじめおよそ二三〇名が集まり、再会を喜び話に花が咲きました。

同窓会総会は卒業回の下一けたが同じ数字の十年ごとの学年が当番幹事となり、同窓会役員・学年幹事の助言や応援を受けながら準備します。こうした世代を超えて同窓会を盛り立てるというのが、関東地区同窓会の特徴です。今年度の総会は、一九八四（昭和五十九）年三月に卒業した三十六回生と二十六回生が当番幹事でした。これまで互いに疎遠だった三十六回生も今回の幹事役を契機に約二十名が結集。さらに、次回への橋渡しも兼ねて三十七回生の有志の助けも借りました。

熊本からは、お世話になった先生の中から二十六回生を担任された山田章則先生、中尾京雄先生、三十六回生を担任された高野茂先生、松永哲雄先生、丁畑佐代先生の五名、来賓として現八高校長の衛藤繁先生、本校同窓会の岡山元紀会長、本村勘治事務局長の三名の計八名にお越しいただきました。

会場はここ数年、東京都港区の東京プリンスホテルでしたが、今回は都心を離れ交通のターミナル・渋谷のセルリアンタワー東急ホテルに移しました。

総会は午後一時開会。当番幹事長の開会宣言で始まり、物故者への黙祷、関東地区同窓会長、本校同窓会長、八高校長のあいさつと進みました。

今年度は同窓会の役員改選期にあたるため会計監査報告の後、新役員の承認と紹介がありました。

乾杯の後、歓談の時間になると会場外の別室では学年ごとに記念撮影をしました。

第二部はお招きした五名の先生方のスピーチから始まりました。退職後の第二の人生を満喫されている先生、現役として生徒とともに過ごされている先生のお話に笑いや拍手が起こりました。



今回のアトラクションは、「やっちろクイズ・グーかパーか?」。昨年好評だった八代や八高にちなんだクイズを受け継ぎました。アトラクションを一方通行的なものではなく参加型にすることで、会場がひとつになればと企画しました。また、ふるさとを離れて暮らしていると、八代や八高の話題にふれる機会がほとんどありません。クイズを通じてやっちろを思い出してもらおうという意図もありました。

グーかパーの二者択一で手を挙げて答えてもらう勝ち抜き戦方式のクイズでしたが、八代・八高についての関心が高いためか正解者が多く、予定時間をオーバーしてしまうほどでした。クイズの賞品でもひとひねり。会で用意するのではなく、同窓会役員や当番幹事に賞品の提供を呼びかけました。その結果、約八十点のバラエティーに富んだ品々が集まりました。



今年度と来年度の当番幹事の紹介とあいさつ、校歌の合唱、締めの万歳と続き三時間にわたる総会が幕となりました。

同窓会も少子高齢化による社会構造の変化や、人間関係の希薄化などで参加者が減少していく傾向にあります。個人情報の保護によって連絡がとれなかったり、景気回復が遅れていたりしていることも同窓会運営の逆風になっています。同窓会は会員からの会費によって成り立っているので、総会参加者の減少は会の存続にかかわる大きな問題です。

そこで今回は、いくつかの対策を試みました。

- 学生以外は男女別に一律だった会費を、同窓会に参加しやすくするために若年世代に配慮して四区分に設定
- 三十代以下の結束を強めるために、事前に若手だけのミニ同窓会の開催
- 電子メールや電話を通じて、卒業年次ごとに参加を促す呼びかけ

関東地区同窓会ではこれらの効果を検討し、さらに知恵を絞って、「骨太の同窓会」にする取り組みを続けていきます。



私たちの関西同窓会

奈良大和路を歩く！《八代いさっか会》

平城遷都一三〇〇年を迎える

万葉集に「飛鳥の明日香の里を置きて去なば君があたりは見えずかもあらむ」と詠まれたこの歌は、和銅三年（七一〇年）藤原京から平城京への遷都が題材だと云われています。以来延暦三年（七八四年）の長岡遷都を迎えるまで日本の首都として繁栄し、壮大な大伽藍をもつ東大寺・興福寺・薬師寺等があいついで建立、今年は平城京への遷都から一三〇〇周年にあたり「奈良」は連日大賑わいの様相を呈しています。



平城京跡にて

《八代いさっか会》の名称由来

熊本県南部の方言に「元気が良い、栄える」と云う意味で「いさっか」と云う言葉があります。その言葉に由来して八高関西同窓会ハイキング仲間の集いを《八代いさっか会》と呼称して、春秋の好シーズンに年二回「奈良・大和路」を歩いています。ガイド役は日頃観光地奈良に全国から訪れる観光客を相手に活躍中の観光ボランティアガイドの池田　治さんと植田信也（高一四）さんです。

《八代いさっか会》
世話人　橋口敏昭（高一〇）

ガイド日記

第六回『奈良大和路ハイク』は「佐保・佐紀路めぐり」このルートは平城京跡の真ん中を西から東へ横切るコース。奈良の今年は「平城遷都一三〇〇年祭」の真っ最中です。今回は、そのメインイベント会場となる復元された「大極殿正殿」と遅咲きの観桜も楽しむプラン。まず平城京跡を西から東方へ向います。大極殿正殿と同じく復元された朱雀門を南方に眺めた所で記念の写真をパチリ！　どうしても右を見たり左を見たりと歩くのでのろのろスピード。当然ながら史跡なりに出合うと説明を加えます。三〇人近い人数ですから二人のガイドが前集団と後集団に別れての案内となります。そのうちに桜花の下でランチ・タイムです。各自が持ち寄った弁当を戴きながらのビールは格別の味。午後からの歩行は満腹感でスピードがいちだんと鈍り、時間との相談でガイド泣かせが続きます。それでも法華寺から聖武天皇・光明皇后両陵まで順々に案内を終わり、無事故でゴールの近鉄奈良駅に到着。解散後は反省会を兼ねての慰労会、疲れが一度に吹き飛びました。

奈良にはハイキングコースがいっぱいあり、どのコースにも神社・仏閣の史跡が宝庫です。より四季の自然を感じて貰おうと毎回コースの選定には困惑しますが、何よりも「楽しんで歩いて貰う」をモットーにこれからも《八代いさっか会》のガイドを続けてゆきたいと思います。多くの同窓生のご参加をお待ちしています。

池田　治（高一〇）



航空自衛隊幹部候補生学校（奈良）にて

大きな絆で

七十余年間住み慣れた八代を離れ、縁あって大阪の豊中市に住む事になりました。知人・友人が少ない地ではなかなか馴染めません。孤独の日々を過ごしている中で母校の同窓会の存在を知りました。同級生との電話会話で早速の再会、五十余年隔たっていた距離が一杯のお酒で埋まりました。『奈良・大和路ハイク』にも誘って頂きました。いちどに三〇人の同窓生に会えました。上級生が下級生から慕われ尊敬されています。人間関係が希薄になりつつある今、関西同窓会には上級生と下級生の間が一本の大きな絆で結ばれていました。永年の諸先輩方の指導と思いが生かされての事でしょう。同窓会の中に歴史を感じました。これからは関西同窓会のいち会員として、その歴史の中に没入して余生を楽しんでまいります。

吉住敏郎（高八）



秋山幸二さん（高33回卒）（福岡ソフトバンクホークス監督）に聞く



八代高校同窓会福岡支部だより

「優勝おめでとう！秋山監督」秋山幸二さんは八代高校初のプロ野球選手で、現在福岡ソフトバンクホークスの監督で活躍中。今最も注目度の高い卒業生であり、また八高の誇りでもある。今回、会報の発行にあたり福岡支部では、秋山監督へのインタビューを企画。取材は九月上旬、ペナントレース優勝争い佳境の中の、貴重な時間を割いて応じていただき、高校時代の思い出など同窓生へメッセージを送ってくれた。

進学してたら？公務員になっていた

＝まず高校時代の思い出を聞かせてください

高校の時は宮原の家から四十分かけて自転車通学していました。雨や風の日は辛かったですが、おかげで足腰のトレーニングにはなったと思います。進学を目指して八高を選んだのですが、勉強は苦手でした。やたらと試験やテストが多かった。（笑）だから野球はするつもりはなかったんですが、中学時代の仲間から誘われ、途中（五月）から入部しました。当時釜先輩が三年生にいて素晴らしい投手でした。私が投手をやったのは吉良先生（監督）が「体が大きいから投手がいい！」と。練習はかなり一生懸命やりました。高校時代は頭の中は野球一色で、勉強よりは野球漬けの高校生活でした。もともと短距離は得意でしたがマラソンが苦手で、十六キロ走る校内マラソン大会は辛かったですね。だからプロでは走り込みの少ない野手に転向しました。（笑）もしプロに行かなかったら？大学進学して公務員になってたんじゃないですか。



博多はいい町ですが冬は寒くて・・・

＝西武ライオンズ時代の福岡・平和台には同窓生で応援に行きました

ライオンズ時代の平和台の試合では、地元九州ということで、多くの方に応援に来てもらいました。ホークスとの試合はビジターにもかかわらず、博多はライオンズファンが多く熱気がありましたね。あと「夜の博多」も楽しかったですね。（笑）博多は住みやすい町ですが、玄界灘の冬は寒くて苦手です。八代のほうが冬は温暖で良かったです。

八高時代が野球人生の原点です



＝今、ソフトバンクホークスの指揮官に。"八高時代"が何か役立ってますか？

難しい質問ですが、やはり野球部でポジションが投手だったという経験は活きてます。選手を指導する時「自分で考えることが大切」ということを言っています。投手をやっていたことで練習方法を含め「自分で考え、調整していく」という力が備わったと思います。このことを選手に伝える意味で役立ったと思います。八高時代は私の野球人生の原点です。



＝ところで、娘（中学生）さんはゴルファーとして活躍？

娘の教育は妻に任せてます。（笑）ゴルフは、親子の会話がなくなると嫌なので、好きなゴルフなら共通の話題ができるかな？と思い始めさせました。プロに？自分で決めるんじゃないでしょうか？

＝最後に同窓生へメッセージを！

久しく母校には顔出していませんが、以前テレビ番組の関係で帰った時、八高生は挨拶がしっかりして、いいなあという印象がありました。時代が変わってもいい伝統をつないで欲しいと思います。最後に、いつもホークスへのご声援ありがとうございます。

なかなか同窓会には出席できないですが、同窓生の皆さんの力強い応援に感謝します。

＝今日はありがとうございました。



秋山監督を囲んで記念撮影

「秋山監督がいいよね」―恐いもの知らずの主婦は球団事務所へ〝アポなし〟で直訴しインタビューが実現しました。監督の印象は、毎日多くの人に会い、指導する立場の一流のオーラを感じました。また、優しく丁寧に応対していただき心より感謝します。この企画では福岡同窓会（伊佐、古川、磯部、村田、松中、辻）の皆さんにお世話になりました。

（福岡支部　占部万里子（旧姓水本）三十回卒）

福岡支部総会のお知らせ



福岡支部では毎年二月に総会を開催しています。平成二十三年二月十二日に八仙閣で行います。福岡で先輩・後輩の垣根を越え、秋山監督のお祝いをしましょう！多くの皆さんのご参加をお待ちしています

【お問い合わせ】

福岡支部事務局長　伊佐　学

m_isa@f4.dion.ne.jp

八代高校同窓会熊本市支部だより





会長に高十回の冨田徹也氏、副会長に高十四回の村林孝彦氏、高十五回の益田敬二郎氏、高十六回の北島明子氏が再任された。

「八代高校熊本市支部同窓会総会」を終えて

二〇一〇年十月二十三日（土）、高十九・二十回生を幹事とした「第十五回八代高校熊本市支部同窓会総会」を、十九回生の土山憲幸さんが総支配人を勤める「ホテル熊本テルサ」で開催いたしました。

事前の心配をよそに約三六〇名の先輩後輩にお集まりいただき、幹事一同感謝感激しております。九十歳から二十四歳までと、八高の歴史を感じる出席者の皆さんが、和気あいあいと交流を深め、お互い久し振りの再会で、友好を確かめ、懐かしさを感じているのは同窓会ならではの光景でした。

総会では、任期満了に伴う会長に、冨田徹也現会長の留任と、前回総会の会計報告が幹事会の決定どおり承認されました。

幹事一同が、一番頭を悩ませたアトラクションも、熊本交響楽団メンバーによる弦楽五重奏の心地よいクラシック演奏でオープンし、黒髪地区有志によるひょっとこ踊りで雰囲気を盛上げ、飛び入りとして十七回生堀口巨介さんの「上天草の寅さん」の出演で大いに賑いました。

最後に、十九・二十回生から二十一・二十二回生に幹事引継ぎを行い、出席者全員で校歌を合唱して終了いたしました。

前回の総会終了後、〇九年五月に実行委員会をスタートさせ、村山光信さんを委員長として三十名近くのスタッフが力を合わせてきました。支部幹事会も含め約十回の会議を重ね、周到に準備してまいりました。この間、常に準備などに最大の配慮を頂いた八高〇B等、テルサのスタッフの皆さん、村山委員長の采配、新聞広告を一手に引き受けてくれた二十回生代表幹事の井川さん、司会を努めてくれた坂田（二十四回）松永（五十一回）の名コンビ、受付やカメラ班、そして出席いただいた多くの皆様のご協力により成功することが出来ました。感謝の気持ちで一杯です。

二年後またお会い出来ることを祈っています。

担当幹事
十九回生　東すみよ





















同窓会熊本市支部からの「お知らせ」

次回熊本市支部同窓会は、
平成24年10月27日㈯
担当幹事21・22回生
で開催予定です。

愛知地区同窓会

四四八高会

今年は八月一日名古屋市中区金山駅近くのホテルグランコート名古屋の二十九階で集まりました。

猛暑の中でしたが、一年ぶりに会う友の顔は笑顔・笑顔でした。今まで一度も欠席しなかった男の子が珍しく欠席で「どうしたのかな?」と皆で心配いたしました。

食事は円卓を囲む中華料理。とても美味で、話も弾みました。何といっても、窓外に見える景色が素晴らしかったです。高層ビルの二十九階ですので、すぐそこに名港トリトンの大橋が見え「あの向こうは四日市や桑名よ」「手前の方が知多半島」などと説明し合って、感動する人もありました。

今回の一番の目玉の話は、春に帰省した人から、「八高に中学部が出来たよ」という報告があり、「学校に行って見たけど、校舎が増えた様子ではなかった。」と言うのです。「中学で入試があったら、高校は入試バスかな?」などと話が弾みました。

また、同窓会報「道」が発行されて、記事を書いたことと掲載されたことを報告しましたが、「送って来てない」という人が大半でした。私に送っていただいたのをコピーして送ってあげましたが、その一ケ月後位に「道」が送られてきました。

食事の後は階下へ。金山駅のすぐ近くにある昭和初期からやっているという喫茶店へ向かいました。入ってびっくり。本当に、懐かしい思いのする喫茶店でした。高校時代にタイムスリップしたみたいな気分でした。皆、学生のように賑やかに語り合って、はしゃいで、何げないことも楽しく思えたりします。ゴルフの打ち合わせも無事にできました。

喫茶店を出ると、又、グランコート名古屋に戻り、ボストン美術館へ向かいます。ここで、急ぎの人や、他の用のある人はお別れです。日常を忘れさせてくれる数々の作品を観ながら、穏やかに時間が過ぎ、「来年はどこで会えるかな?」と思いながら別れたのでした。

今回は写真を送ります。六十歳を前に若いでしょう!

年金の話も出て、定年後の二次就職の話やゴルフの計画、旅行の話などで盛り上がりました。

愛知県に暮らす私達は来年も又、別の場所で集います。毎回、幹事さんの下見のお陰で、とても楽しみな同窓会になっています。

当番幹事さん。ご苦労様。そして、ありがとう。

高二十一回　岡田多美子



岡山地区同窓会

会長　今田俊明（八高十回卒）

今年六月六日、岡山にも同窓会（岡山支部）が発足しました。先に発刊された会報「道」をきっかけに十八回卒メンバーを中心に高まった〝岡山にも支部組織を〟との機運により立ち上がった準備委員会の奔走により、設立総会の開催に漕ぎ着けることができました。

県内在住の卒業生約六十名の同郷・同窓の士の集いの場を提供し、親睦と情報交換を図って参ります。

更に、地方の弱小組織ではありますが、他支部の皆様との協力を通じての、母校並びに本部同窓会発展への寄与も目指してまいります。

岡山在住で未登録の方、近県にお住いで参加ご希望の方は、是非ご一報下さい。各々の現在・未来について、そして故郷と母校の現在・未来についても、語り合おうではありませんか。



小門秀則（八高一回卒）

最初のきっかけは、昭和五十年の岡山転勤から間もない頃の、岡山在住の八高卒業生からの突然の電話でした。

「同窓会を開きましょう!岡山には、八代中学・高女も含め卒業生が六十名もいるんですよ!」と。

昭和五十四年から四回、同窓会に参加。諸先輩、更に若い現役大学生とも、懐かしい八代弁で故郷と母校を偲びながら楽しく有意義な時間をともにし、八高のすばらしさと歴史を再確認してまいりました。



昭和54年　第1回同窓会



昭和62年 第3回同窓会

この度、本部同窓会の岡山支部として組織化されたことを大変嬉しく思い、益々楽しく賑やかな会へと発展して行くことを心から願っております。

沿　革

昭和五十四年　第一回同窓会(有志)
昭和(不明)年　第二回同窓会(有志)
昭和六十二年　第三回同窓会(有志)
平成　四年　第四回同窓会(有志)
平成二十二年　支部設立総会
(出席者二十四名)
会則制定、役員選出
その他：不定期での食事会、
親睦ゴルフ、忘年会

大分地区同窓会

『つながり』

八高同窓会が出来たてで特別な動きはない。が、この同窓会の設立が契機で、本部の地区同窓会便りをみたと、連絡が入る。思わぬ声、つい、なまりが出る。同窓会と言う旗が出来ると、何となく点になっていた人の〝つながり〟が線になる。これは同窓会を開くという準備の中で感じていたことでもある。

準備の動きを始めて、頭の中で、さぁ、どうしょうかと、どんな手順で、どうのこうのと思い巡らしていた。思い巡らしても、何にも出てこない。まず先輩に教えを請うのが早い、一番熊本弁が生きている砥上先輩に、連絡。すると、周りの先輩につながり、諸々の状況がリンクする。個々の一人の個人の網にはのってこない知らない情報が蜘蛛の巣のように繋がる。八高の卒業生と言う日常生活に埋もれていた〝つながり〟がイキイキと脈打ち始める。

肝心な、何時何所でするか、前岡先輩に、お伺いすると、即、杉の井ホテルを紹介して頂き、ご本人自らお話しして頂き決定。全て前岡先輩の人の〝つながり〟。あっという間に一番の懸案が解決。

参加にしても、誰が出席するのか、何にも分からないにも関わらず、年齢を問わず、同窓生の皆さんが、同級生とか誘って参加して頂けたのも、それぞれの先輩、後輩の日頃の八高卒業という絆を大事にされている〝つながり〟のお陰。

名簿の整理は　同窓会本部が新しく名簿を作成して頂いた支えによる。

八高大分同窓会の設立は、すべて、目に見えない『つながり』による支え合いのお陰。

八高大分同窓会
事務局　松本宏次（高十五回）

学年同窓会だより

八中43回卒「八代中学第四三回生同窓会」

平成二十二年十月十三日水曜日に、一泊で上天草松島ホテル竜宮にて、八代中学校第四三回生同窓会を開催しました。

今回は八代在住者で計画立案してくれないかということで増住美知雄君を中心に伊藤平三郎君、牧和敏君に橋野俌を入れて四人組で計画を作りました。

いろんな事情で多くの同窓生の都合がつかず、参加者は僅かに十一名でした。

久しぶりに出逢ったせいもあって、夜遅くまで、飲み食いしながら、近況を互いに語り合って、更に友情を深めて、楽しい時を過す事が出来ました。

このような会は年に一回はやりたいものだと云う意見もありましたが、八十八歳の米寿の会が目の前に見えて参りましたので、その時は必ず再会しましょうと互いに誓い合って散会しました。

橋野　俌



H22.10.13　於 天草 ホテル竜宮

高女36回卒　八十七才のアスリート

九月十七日、「第三十一回全日本マスターズ陸上競技選手権大会」に守田満さんが出場の日である。昭和十五年八代高女卒業の同級生清宮さんと二人で国立競技場へ応援というより久しぶりに会うのを楽しみに出かけた。



午前の百米には間に合わなかったが、午後の六十米は目の前で、二百米は離れてはいたもののスタートラインの守田さんはすぐ分かった。二百米では、「世界記録保持者守田満さん」との紹介に場内がどよめいた。五年毎の世界記録達成で、八十才のときに二百米で、八十五才のときに百米と二百米である。

この日は勿論、出場種目すべて一位である。八十七才とは思えない締った体型と若者のような走りぶりは驚きである。

七十才で陸上を始め、これからも二時間の練習を週三日続けるとのこと。

その努力に敬服し誇りに思いながら、元気を貰った一日であった。

この日、テレビ朝日が守田さんを密着取材していて、十月下旬に放映された。

松野　蔚子

高女38回卒 「三十八回さやの会」

八代高女三十八回卒業生で、東京周辺に暮らしている方たちが、「三十八回さやの会」と名付けて年一回集まっておられる事を知りました。八代在住の私達も何回か上京して合流したことを思い出します。

それから何年かたって、八代で毎月「さやの会」ミニ集会をやることに決まりました。どうにか十名位は集まりました。楽しい語らいが続きました。自分の現在の暮らし、女学校時代の思い出と、又体調の悩みと話などと、つきるところがありません。しかし現在は五名となってしまいました。これから年を重ねていきますので、体調を整えて集まるようにしたいと思います。尚老介護で手が外せない人もあって、毎月の集まりも隔月になったりしているこの頃です。

しかしながら戦後の苦難を乗り越え、それぞれの境遇も乗り越えて、八十五歳を楽しく暮らしていくパワーを内に秘め、頑張っていこうと思います。

中井　用

高女43回卒 木綿葉会の集い

八代高女四三回卒業の私達は傘寿を迎える年齢になりました。平成十三年に私達の学年同窓会は八代高女校歌の一節を頂き、「木綿葉会の集い」と名付けました。

以来、年に一回の集いは、たちまち制服の女学生に返り、思い出に花が咲きました。

しかし、年を重ねますと足腰の痛み・もの忘れ・会員の訃報等で十年間続けて参りました「集い」を傘寿という記念すべき年で終わりにしようという事になりました。

最後の集いは、玉名方面へ日帰りバス旅行となり、参加者三十六名は高瀬川裏の花菖蒲園を散策し、菖蒲の花言葉のようにやさしい気持ちに満たされました。次は、世界一の梵鐘で有名な蓮華院誕生寺にお参りし、皆の健康と平和で暮らし易い世の中になりますようお祈り致しました。次に草枕温泉で昼食をとり、話に花が咲いてそれは楽しいひとときでした。

これからは、他の地区とも連絡を取りながら、小グループ毎に食事会でもして、旧交を深めて参りたいと思います。

木綿葉会の集いをこれまで十年間楽しく続けられたのは、会員の皆さんに、人と人とのつながりを大切にするやさしい心、思いやりの心があったからだと痛感いたしております。

ご協力くださった皆様に感謝を申し上げます。

阿部、浪本、西田





中八回卒・高八回卒 48・1 最後の同窓会

私たちは昭和四十六年に第一回の学年同窓会を開催して以来、昨年までに二十一回（平成十年以降は毎年）実施して来ましたが、今年度は全員八十才以上になるので、第二十二回をもって最後にすることになりました。

最後の同窓会は十月十四日玉名温泉「尚玄山荘」で開催しました。

参加者は二十六名で遠くは関東、関西方面からの出席もあり（県外九名、県内十七名）楽しいひとときを過ごすことができました。

卒業以来、六十有余年傘寿を過ぎ、愈々後期高齢者の中枢を占めることとなりますが、健康に注意して元気な余生を送りたいと願っています。

昭和十八年四月旧制八代中学に入学以来、七十年近く同窓会とのご縁が続いていますが、「八高同窓会」の今後益々のご発展をお祈りいたします。

満田　豊

高八回卒 2 「殿二会」傘寿記念同窓会



平成二十二年十月二日、八代ロイヤルホテルで、藤門勍先生を迎えて開催しました。

「殿二会」とは何の事と言われる方が殆んどと思いますので、その謂れから説明します。

簡単に言うと、八代中学、八代高女の最後の卒業生であり、学制改革により発足した八代高校の二回生という事です。最後の卒業生である事から、一殿（しんがり）」と、高校二回生である事から、殿二会という名前を愛用しています。

その私達も傘寿を迎える事となりました。当日は、前回喜寿の時より四名多い、八十八名の方が参加されました。当時の学

八高4回卒 にいなな会



級写真を拡大して参加者に配りました。「これは誰?」「これが私?」と六十数年前の若かりし日の姿に感動したり、驚いたりで好評でした。案内状に、「全体に呼びかける同窓会は最後になるかもしれない。」と書いた所、二年後にやるぞと言い出す人がいたりして、名残惜しい同窓会でした。

平岡 尚道

にいなな会、私たちは昭和二十一年四月、終戦後に八中、八高女に入学した最後の学年です。高校一年まで後輩が居ないという「末っ子学年」でした。常に鍛われ、しごかれたため団結力が強く、卒業後、ちょうど二十年目の昭和四十七年四月に第一回同窓会を日奈久で開催しました。出席された原田琢磨先生から「よくぞ集めたり、よくも集まったり」とお褒めを頂いて以来、会を重ねること二十回、関東、関西でも各々二回開催し交流の輪が広がっています。今年は八代での喜寿同窓会に百六名が集まりホテルで大騒ぎしました。翌日はバスで長崎への親睦旅行で青春を楽しみました。次回は平成二十四年四月に八代で開催する予定です。



にいなな会の特長は、東大、京大卒の優秀な者も居るが、ワサモンやトッパツキも多く同窓会を開催する度に何かが起こり幹事たちを悩ませる学年です。

四回卒 幹事 石坂 直行

「植樹」



にいなな会は八高緑化事業に併せて、校舎中庭に記念植樹を行いました。四月上旬に満開となり、入学式に花を添えたいという希いを込め、「花海棠」の苗木を樹えました。入学式にはいつも可憐な薄紅色の花を沢山咲かせ、華やかな雰囲気を出しています。

八高7回卒 八高七回卒学年同窓会について

同窓会事務局から依頼がありましたので筆をとりました。

八高七回卒の学年同窓会（又の名を三十会ともいう）は還暦までは五年毎に八代のホテルで開催していたが、鬼籍に入る人が多くなり還暦後は三年毎に開催している。

開催日が妙見祭の前々日二十一日となっているのは同窓会終了後に妙見祭を見て、帰ってもらうという気配りからである。

又、開催日の前日には希望者によりゴルフコンペを八代ゴルフクラブか小川ワールドゴルフクラブで開催し、晩秋の八代を楽しんでもらう事にしている。コンペ終了後は反省会を行い喜ばれている。

同窓会日翌日には希望者による第二次ゴルフコンペも行っており、大いに盛り上がる三日間となっている。

昨年十一月二十一日に学年同窓会をロイヤルホテルで開催した。出席者四十七名、前回比三十五名減でした。毎回減少しているのはさびしい限りである。

東京でも学年同窓会が毎年十月に三十会として新橋の第一ホテルで開催されている。出席者は約三十名。小生も過去二回程出席した。第一回目の出席は十三年ほど前、箱根の強羅ホテルで開催され、夜遅くまで賑った。

翌日、近くの箱根ゴルフクラブでゴルフコンペが開催されたが誰もが二日酔いで成績は皆悪かった。

第二回目の出席は平成二十年十月八代から小生と和田君二名で出席。新橋の第一ホテルで昼間開催。乾杯につぐ乾杯と近況報告で大いに盛り上がり旧交を温めた。午後、和田君等希望者は那須高原でゴルフコンペに参加して楽しんだ模様。小生は翌日ハトバスにて久しぶりの東京見物を楽しみ帰省した次第です。



以上の様に八代では三年毎、東京の三十会は毎年開催していることをお知らせして筆を置きます。

宮川 誠也

八高10回卒 広島・岡山で"みどりの風"を！

今年の関西三三会（昭和三十三年卒―高十回卒）のバスツアーは五月十日から三日間山陽道の広島・岡山で"みどりの風"を満喫。

初日―大阪を出発した貸切バスは中国自動車道を西下して宮島口駅へ。そこで熊本・福岡・大分からの新幹線利用の九州組たちと、宮島を案内して貰う観光ボランティアガイドさんと合流。「安芸の宮島」へは海から参拝できる「大鳥居便」を予定するも、宮島口桟橋到着直前に最終便が出航済で落胆！約十分間の船旅は、小雨けぶる宮島桟橋

への直進船利用となる。しかし一霊峰弥山の原始林を背に瀬戸内に浮かぶ大鳥居と厳島神社の荘厳な社を目のあたりにした瞬間一落胆していた気持がスーッと消え去る。想い起こせば一八高卒業の年の運動会仮装行列で「清盛の厳島参詣」を演じた縁のご利益か?宮島へ集い来た二十九名は心躍らせながら初日の宿舎「国民宿舎・みやじま杜の宿」へと足をはやめた一。

二日目は広島平和記念資料館から尾道の千光寺公園を経て岡山の吉備路へ。

最終日には地元在住の二人も歓迎に駆け付け参加者も三十三名に増え一備中国分寺から倉敷美観地区・特別名勝岡山後楽園と巡り一三日間の行程を無事に終える。

来年も五月九日から三日間「湖北・若狭・丹後半島へ」のバスツアー実施の予定。

十回生の皆さん!毎年五月は関西へ集い下さい。そして"みどりの風"を一諸に満喫しましょう。

(文責=関西三三会幹事／橋口敏昭)



①安芸の宮島



②倉敷美観地区

高八 13回卒

八高同窓会の皆さん御存知ですか?

高校十三回卒業生は毎月学年同窓会をやってます。

「雨が降ろうが、ヤリが降ろうが毎月やる。」をモットーにして十五年近く必ずやっています。

少ない時は四~五名ですが、三十名を超える時もあり元気で参加することを楽しみにしています。

八月に十三日会の看板も出来早速、お披露目会をしました。

来年は古希同窓会の準備に入りますよ。

水雲　滋明



高八 14回卒

八高十四回「奈良遷都千三百年祭」に集う



十四回生は平成八年十月に行われた創立百周年記念式典や各種事業と一年がかりで取り組んだ当番学年。以来、「三七会(みなのかい)」を結成して折々の集いや国内・海外旅行を企画して旧交を温めています。

交流のメーンは学年同窓会の毎年開催。手始めは一組から八組までが順番で幹事となって趣向を凝らした同級会を地元・八代市をはじめ、熊本市、鹿児島、宮崎などで開催しました。

クラス当番による開催が一巡した後は、関東、関西、福岡地区在住者が世話人となって八代と交互開催しており、今年は関西組の肝いりで、十月に「遷都千三百年祭」でにぎわう奈良に全国から四十人が押しかけました。

同月二十日、空路、あるいは新幹線で大阪入りした同級生たちは貸し切りバスで明日香村へ。かねて飛鳥古墳や奈良公園のボランティア・ガイドをしている同級生の案内で「石舞台古墳」や「高松塚古墳」を見学。夜は三重県の忍者の里・伊賀青山のホテルで懇親会を開き、お互いの健康を喜び合い、近況や思い出話に花を咲かせました。

翌二十一日は奈良に戻り、「千三百年祭」の会場・平城宮跡や興福寺、東大寺大仏殿を訪れ、ちょうど五十年前の修学旅行の思い出に浸りました。希望者は二十二日、京都で「時代祭り」を見物。来年の八代での再会を約して散会しました。

三七会　村山　忍

高八 15回卒

八高十五回の同窓会

私達の学年同窓会は、オリンピックの年毎に実施してきました。理由は誰もが忘れないだろうとのことでした。

前回は、北京オリンピックの年(平成二十年五月二十三日から二十四日)に、人吉鍋屋本館で実施しました。関東・関西からも懐かしい顔ぶれの人達が集まり、恩師の竹内先生を囲んで楽しい時を過ごし、人吉の青井神社等の観光も致しました。

前々回は、天草の華椿でした。毎年の全体同窓会にも二十名位出席しています。

最近では、四年に一度では、間が空きすぎて待ち遠しい、もっと短縮して欲しいとの声もあり、来年(平成二十三年)実施することになりました。

日時や場所等については、なるべく早く決定し、学年のホームページに発表します。



http://hachikou15kai.cocolog-nifty.com/

八高十五回生多数のご参加を希望いたします。

白石　國光

高八 19回卒

「八高十九道の会」平成二十二年度活動報告

1　こんにちは!　まずは、「八高十九道の会」の紹介です。

この会は、八代高校第十九回卒業生の会で、二年前の還暦同窓会を契機に、次回の同窓会まで、通年の活動をしようと活動を続けています。還暦同窓会の事務局を母体に、春・夏・秋・冬の季節イベントを中心に、八代市や熊本市等の同窓生へ案内しています。最近は、案内チラシ希望者も増えています。

なお、十九回卒の還暦同窓会の様子は、DVDに編集して、同窓会のHPに入れてあります。

2　本年度の活動の紹介です。

今年は、これまで、一月九日(土)「絵画に親しむ集い」(会場:未来の森ミュージアム)岩崎日出己君の作品の展示会を鑑賞。

本人からの絵画鑑賞のこころを学び、さらに、作品の解説を聴きながら文化の香りを堪能しました。また、希望者は、岡本(佐伯)むつ子さん経営の「飯々珈々(ママカカ)」で「道の会ランチ」をいただき、心もお腹も最高に幸せな一日を過ごしました。

春のイベントは、三月二十七日(土)「ビールと夕陽とおれんじ鉄道と」を肥薩おれんじ鉄道の八代駅～水俣駅往復をイベント列車〝おれんじちゃん〟を貸し切り、ビールを片手に、夜桜と夕日見物と洒落こみました。日奈久駅の夜桜は見えましたが、あいにくの雲空で、夕日は見えませんでした。しかし、岩崎夫人の八代海(不知火海)への感動ぶりに、故郷の素晴らしい自然を再発見しました。持ち込んだお酒でも飲み足らない面々は、十九道の会秘密基地等で二次会・三次会と盛り上がったとか。

夏が待ちきれない人と、メロン好きの方々のために、卯野木博美君のご協力を得て、初夏のミニイベント「メロン・ジャガイモ・トマトとおにぎりと」を企画しました。糖度が最高に高まったメロンを、自分で収穫・箱詰めし、破格の値段でのご提供というものでした。さらに、ミニトマトとジャガイモの収穫体験付きでした。四十五℃を超えるハウスの中での作業に、汗を流し、口に入れたミニトマトの味はデリシャスでした。また、手作りのおにぎりとてんぷらちくわの昼食は、これぞ弁当の原点というもので、おいしさは最高でした。卯野木君のご家族には、大変ご迷惑をおかけしましたが、参加した皆さんが、感謝と喜びとロマンを手にした一日でした。

夏のイベントは「ピアノと料理のコンサート in 四季乃遊膳」には、二十名ほどの参加者があり、郷土の素材を使った美味しい料理をいただきながら、中野良美君(四組)の、心を癒すジャズコンサートを堪能しました。また、デザートとして、これまでの「十九道の会」のイベントを映像で報告し、大変盛り上がりました。同窓会総会の方も約二十名の参加者があり、先輩や後輩の方々と楽しく交流できました。

(文責:八高十九道の会
事務局長
簑田　正一)





八高21回卒 四四八高会

昭和四十四年(高二十一回卒)卒業生の学年は、「四四八高会」(よんよんはちこうかい)と名付けております。第一回目は、昭和五十四年三月に、卒業後十周年として開催しました。以来、三年毎に開催し、数々の伝説(内容は割愛)の同窓会を経て、還暦を迎える今回は第十一回目となりました。

平成二十二年八月十四日(土)八代ロイヤルホテルにおいて、九十四歳になられる東島先生をはじめ、川上先生、新垣先生、松下先生、森悦三先生、中村先生、森厚先生の恩師七名、生徒(先生方より年上に見える人もいましたが……)九十二名の参加でした。

遠くは関東、関西からの帰省も多く、盛会でした。

先生方はさすがに話が長く、近況の話だけで軽く時間オーバーでした。

毎回の参加者や初めての参加者もあり、懐かしい顔や思い出せない顔がありました。

会場には第一回からの集合写真も展示され、若い頃の自分を見ることが出来ました。

旧友と話をし、記念写真を撮り、校歌を歌い、バンド演奏があって、楽しいひと時を過ごしました。

もちろん二次会を計画されており、五十数名の大移動で「白馬」のステージへと乗り込んだのでした。歌って踊り、お喋りをして、あっという間にお開きとなり、三々五々三次会へと散って行きました。

今回も奇特な同級生がいて、会費のほかに寄付金を送ってくれたりで、助かりました。有難うございました。

また会える日を楽しみにしています。

沢村　良一





八高32回卒 卒業して三十年

今年一月二日、八代ロイヤルホテルにて同窓会がありました。今回は八高を卒業して三十年目の節目でもあり、六年前の前回の前々回とくらべて、同窓生も一四九人と多数参加され、とても盛会だったように感じました。

恩師も六人ご参加いただき、皆さんから当時の私達生徒の思い出など語っていただき、たいへん懐かしく、また、自分達が当時の先生方の年齢に追いつき追い越していることに改めて歳月の流れの速さを痛感させられました。

八高卒業、進学や就職、結婚、子供の誕生・成長と皆それぞれ環境はめまぐるしく変わっていく中でこの懐かしい同窓生の顔、あちこちで友達の輪ができ、近況や昔話などで盛り上がっていたようです。今回は幹事のサプライズで外国在住の同窓生とインターネットで会場の様子や会話をつなぐなど、趣向も凝らし、予定の時間がくるのが早いこと。校歌の「道」を全員で歌い、感動のうちにおひらきとなりましたが、二次会、三次会と飲み歩き、家に帰ったのは翌朝の五時でした。

次回は、全体同窓会の幹事を務める四年後の夏に開かれる予定です。またたくさんの同窓生が集い、恩師も元気で参加されますように。

宮本　誠司



八高座談会2010年

新制八代高校開校!

戦争、終戦、そして戦後の大改革。
めまぐるしい大変動の時代を
生きた八高生、
今、青春の感動を呼び覚ます。

〈出席者〉（敬称略）

満田　豊（高1回）
平岡　尚道（高2回）
野田恵美子（高2回）
加藤みゆき（高2回）
蓑田　美昭（併中1）
近藤　和彦（高3回）
吉田ツタエ（併女1）
森内　幸江（併女2）
和田　恭子（高4回）
石坂　道行（高4回）
司会：徳永　三幸（高4回）
岡山　元紀（会長・高10回）

戦後の学制改革　複雑だった学年編成

（岡山） 昨年、同窓会会報を創刊し、全国に、母校八高の情報を発信しました。中でも目玉の記事として八代中学・高女の座談会を掲載したところ、全国から大変な反響を得ました。今回第二弾として、高一回から四回の皆さんにお集まりいただきました。どうか昔話に花を咲かせてください。よろしくお願いいたします。

（徳永） 今回お集まりの皆さんは、昭和十八年から二十二年入学の方々です。戦争と終戦、日本史が大きく変わった大変な時代に、学園生活を送られました。何せ、六十年前のことで、時効なのでなんでも包み隠さずお話しをお願います。私も、同世代です。司会者というより、メンバーとして座談会に参加しようと思います。

（満田） 私は昭和十八年に八代中学に入学し、五年間学び六年目に、新制高校三年になり卒業しました。同じ校舎で、同じ先生方だったので、高校一回卒というより八代中学六年生という印象が強い。戦時中は、分散教育で、大した授業もなかったが、高校二年の時、児玉先生の世界史の授業に感銘を受けました。フランス革命の授業でしたが、新しい価値観・社会思想史の授業は私に学ぶ喜びを教えてくれました。その後の人生に大きな影響となりましたね。

（徳永） 昭和二十二年に、学制改革があって、私たちの時代は、複雑な学年編成になっていましたね。

（平岡） 私たちは、昭和十九年入学の最後の八代中学卒業生でした。当時は、戦時中とあって、中学校は四年卒業となっていて、中学四十九回卒として、昭和二十三年三月卒業しましたが、学制改革で、四月から高校二年生となりました。高校に入って、事情があって、途中で辞めた人は、中学卒とならなかったので、その人たちは、中学四十九回卒と自分たちで決め、今は、同じ同級生として「殿二会」として付き合っています。最後の中学生と女学校、高校二回卒で「殿二会」は結成されています。

（吉田） 私たちの場合は、さらに複雑で、専攻科進学コースで女学校五年間ということで、八代高女に入学しましたが、通常の四年で卒業した人も、併女卒となっています。一学年上の方は八代高女卒となっていますが、私たちだけ、しかも一年多く通っていたにもかかわらず併女卒なので納得がいかないでいる人がたくさんいます。併女卒ではということでは同窓会には出席できないと怒っている人もいます。高校に行った人は、高校三回卒となっています。

（加藤） 同窓会名簿ではどうなっていますか。

（森内） 併女二回です。いやでしかたありませんが、これも時代の流れだなあと半分納得しています。

（近藤） 私たちは、終戦の年に入学し、昭和二十三年四月から高校一年生となった学年です。当時は、中学からそのまま高校へ入学したものと、小学校の高等科卒（二年年上）や戦地から引揚げて入学したものと随分と年齢に幅がありました。卒業して三十年目に、初めて同窓会を開きました。今も「からいも会」（当時一番の思いは、宮地で作ったからいも）として、付き合っています。

（野田） 私たちの学年は八代高女を四年で卒業する人と、八代女子高等学校に進学する人がいました。八代女子高等学校に一年通って、二年目に八代高校と合併して、高校二回卒となりま

した。

（加藤）二クラスが女子高に進学しましたが、一年後、八代高校に進まれた人たちは一クラスで、その中の元気のいい九人は、男子と混合の一クラスへ、残りは、女子だけのクラスでした。当時八高は六クラスでしたね。

（満田）昭和十八年入学の女学校の人は、女子高に進学されたが、その人たちはどうなりましたか。

（加藤）私たちは、三年の時に八代高校に統合されたが、一つ上の方々は、そのまま女子高校卒となりました。八代女子高等学校卒は、その一学年しかいません。

（近藤）当時の複雑な学年編成は、「八高一〇〇年史」の五六五ページに「新学制移行期の経過措置」という項目に書かれています。私は、昭和二十年八代中学入学だったが、一〇〇年史によれば、八代高校併設中学校入学となっています。



満田　豊 さん

（養田）私は昭和二十年入学で、二十三年に併中一回として卒業しました。三九五名いた卒業生の大部分は八高に入学したが、他高校への進学が八十二名、就職組が三十名で、私もその一人でした。勉強が続けたくて、ちょうどその時期に勤労学生のために創設された熊本女子高の通信教育課程を受講したが、五月に八高に定時制課程が開設されたので、夜間部に入学し、働きながら通いました。当時は、中学四、五年生で卒業した人も、定時制に入学してきました。

憧れの八代中学、八代高女に入学！しかし、現実は……分散教育でおしゃれもできず授業もなかった、勤労奉仕の毎日でした。

（徳永）私は、八中の黄線の帽子にあこがれて入学してきたが、皆さんはどうでしたか。



平岡　尚道 さん

（野田）女学校の制服の白の襟カバーが憧れで入学したが、戦時中とあって、へちま襟の作業服にモンペで、胸あてに校章があり、非常食と救急道具を胸に掛け、防空頭巾を背中にしょっての登校です。

（和田）私も女学校の白の襟カバーに憧れて、猛勉強して入学したが、制服はなく、モンペの作業服で下駄ばきでした。教科書は墨で塗られ真っ黒でした。

（近藤）昭和二十年に入学したが、一、二年生は分散教育で、三年生はすぐに学徒動員されました。私は、小川からの通学生なので、小川町の小学校で分散教育でした。

（森内）私は、福住寺でした。分散教育でも男女別々でしたね。

（吉田）勤労奉仕で、田植えの手伝いや稲刈りなど動員されていました。郡築に行くと一枚四反の田圃で広くて大変きつかったです。農家のおばちゃんは作業が速くて、ついていけませんでしたね。作業の後の、おはぎと白いコメの握り飯は格別でした。



野田恵美子 さん

（石坂）当時は、食糧難でしたからね。田植えのときにはヒルがいっぱいいて、大変でしたな。

（平岡）私は、太田郷小で、分散教育を受けました。天気のいい日は、宮地のからいも畑の作業で、雨の日は、教室で勉強でしたね。中学一年の終わり頃から空襲がひどくなり、警報が解除されれば、すぐに中学校へ集合し、教室の窓を開けなければなりませんでした。私は、生物室の担当で、夜の時は、教室に骸骨の標本が置いてあって、気色悪かったです。

物資が乏しく下駄さえなかった時代　汽車は屋根まで登って通学

（徳永）学校までの通学はどうでした？

（満田）大半が歩いて通っていました。球磨川が氾濫すると、坂本から日奈久経由で、山の中を歩いて通った友達もいました。親父の世代は日奈久から十キロ歩いて登校するのは当たり前の時代でした。私たちの時代には自転車はあったが、ゴムがないためパンクで乗れなかったですよ。

（徳永）そうそう、遅刻の理由に自転車がパンクしたといえばすんなりと許してもらえたですね。（笑）

（岡山）八中が済々黌の分黌だったころ、出町の光徳寺まで東陽村から毎日歩いて通われていた人がいたそうです。

（吉田）私は、下駄ばきで歩いて通学していました。下駄といってもモノがない時代だったので、履き古しで、草履の様な下駄でした。よく緒が切れて、修繕しながら学校に通いました。

（平岡）下駄も珍しかったので、皆、梅雨の時期は裸足で登校しました。先生から、「空襲で学校が焼けたら、裸足で消火はできんぞ」と怒られたが、履いていこうにも下駄がない時代でした。

（野田）私は、坂本からの汽車通学でした。屋根の上にもたくさん人が乗っていましたよ。時間に遅く来ると、みんなが窓から手を出して、引っ張り上げてくれました。デッキにぶら下がっていた中学生が、信号機に頭をぶつけ怪我した人もいました。

（和田）私も、ぶら下がりの常連でした。当時の汽車は最後尾

がコンテナ車で、遅れてくると、コンテナ車に乗るはめになりました。下駄履きだったので、足を踏んばるのに気合を入れていました。古麓のトンネル通過時は、みんな真っ黒になっていましたね。

（石坂）昭和二十四年七月に撮った集合写真を見ると、ほとんどが下駄で、戦闘帽もいました。

（近藤）私は、小川からの汽車通でしたが、当時は席が決まっていました。中学は、最前列は一年生からで、女学校は逆で、最後尾から一年生が座ることになっていました。駅から学校までの通学路も、中学生は営林署のあった新しい道、女学校生は球磨川駅までの引き込み線の道を歩いて通学する決まりになっていました。自然とそうなっていて、これが伝統でした。

青春真最中！
夢と希望に満ちた
男女共学！
先生もあだ名で呼んだ。
楽しかった学園生活

（岡山）男女共学のセレモニーはどうでしたか。運動場で対面式があったと聞いていますが。

（加藤）古島真知子さんが先頭で女学校の旗をかざし、女学校から分列行進で中学校に到着しました。蔦の絡まる校舎に憧れて、胸がドキドキしてきましたが、女学校に比べあまりにも汚かったのでがっかりしました。私たちは女子だけのクラスでしたが、選択科目で英語を受講した十名は、英語の時間だけ一組で男子と一緒に授業を受けました。


加藤みゆき さん

（和田）女学校の床はリノリウムの廊下で、ピカピカできれいだった。中学校はとても汚くて、「あーっ、牢屋に来た」という印象でした。誰かが、廊下を土間と間違えて土足で上がったら、先生からひどく怒られていました。

（満田）八代中学は、水洗便所でした。「きれいだろうな」と喜んで入学しました。しかし、戦時の紙不足で、ちり紙がなく代用品の新聞紙だったので、よく詰まって故障していました。そこで、急きょ普通の便所に改造された。がっかりでしたよ。

（近藤）私たちの学年から、女子だけの一クラスを除き、ほとんどのクラスが男女共学でした。クラスに七人の女子が入ってきたので席の配置で賑わいましたね。女学校から辻先生という女の先生が来られました。山桜というあだ名の先生で、初めて女性の先生に習いました。

（徳永）そういえば、中学校では先生方にあだ名をつけていました。女学校はどうでしたか？

（吉田）女学校でも先生にあだ名をつけていました。メタンガスとかブイ一号とかきつねしゃんとか。

（蓑田）体操の先生にウォーミングアップとか、山本権兵衛先生とか。


蓑田　美昭 さん

（近藤）八十周年の記念誌に古嶋団平先生が書かれていましたが、当時の時間割を先生のニックネームだけで作ったクラスがあったそうです。また、数え唄もあって、三十一番まであったそうです。ほとんどの先生はあだ名で呼ばれていました。一年生はあだ名しか知らないので、よく上級生から○○先生を呼んで来いと言われ、職員室に先生を呼びに行くと、それが本名ではなくあだ名だったので、よく怒られていました。

（石坂）松本先生は猫シャンと呼ばれていました。授業の前に、宿直室の猫を教室に連れてきて、先生が教室に入られた瞬間に猫を放すと、「ニャオー」といって猫が飛び出していった。先生からひどく怒られましたね。

（徳永）ナポレオンと呼ばれた児玉先生の授業は特徴があった。窓に駆け上って歴史上の人物のまねをしたり、情熱的で、非常にユニークでしたね。


近藤　和彦さん

（野田）初めての男女組のクラスの担任は児玉先生でした。「男子三十五名、女子九名、計四十四名児玉一家」という看板を教室に掲げていました。面白くて楽しい授業と優しいところが大好きで、私たち以降の児玉先生が担任されたクラスどうし、縦割りで会を作り、児玉先生を囲んでよく同窓会を開いていました。

（近藤）当時、戦後ということもあって、「神さび立てる」という中学校の校歌は入学式や卒業式に歌えなかった。さびしいということで、先生方からの呼びかけで昭和二十五年に生徒から歌詞を募集がありました。生田陽子さんの歌詞が選ばれ、「朝霧晴れて」の生徒歌できた。当時上映されていた「青い山脈」の雰囲気でみんなから親しまれましたね。今でも、同窓会で歌わせろと言われます。

（蓑田）当時は、映画の全盛期でしたね。昭和二十一年に、木下恵介の「わが恋せし乙女」の時、戦後初めて八代中学で映画が解禁になりました。ちょうどその日は、午前中、校内行事で高田の駅までマラソンがあって、午後になって解散となり、「今日から映画を見てよい」となって、みんなで映画館へ行ったが、満席でした。

（徳永）総天然色の映画には驚きましたね。当時は、白黒とか半分カラーだったりしましたね。

（近藤） 映画で印象に残っているのは「赤い土」とソ連の映画の「シベリア物語」でした。

（蓑田） 総天然色の「石の花」という映画が一番はやっていましたね。

（加藤） 生徒自治会ができて選挙が始まりましたね。

（平岡） 初代会長は同級生の吉岡辰夫君だった。

（和田） 女学校の時、「眞美」という文集を作りました。素晴らしい文集で、当時の女学校生は、いかに文学的だったか分かります。たとえば「ジードの女の学校による私の愛情観」とか「女代議士について」など、小説や感想文などいっぱい掲載されており、質も高い。過去一回復刻しましたが、残念なことに古くなり、ボロボロになっています。新しい復刻版の完成が望まれています。

（蓑田） 八中新聞が発行されていましたね。小松正さんの小説に、西永和夫さんが挿絵を描いておられました。

（近藤） 昭和二十三年に八高新聞の創刊号が出ました。八高新聞は、今でも続いています。

（石坂） 高校三年の時創立五十周年の式典がありました。いろんな催し物があり。教室に各クラブから資料や写真などが展示されていました。私のクラスは当時NHKラジオの人気番組「上方演芸組」をもじって、「下方じゃんじゃん組」という漫才を上演し、好評でした。


吉田ツタエ さん

（近藤） 白鷺の記録によれば、創立四十周年は昭和十年にあったが、五十周年はその十年後ではなかった。

（石坂） 女学校と中学校は、創立が違うので調整して、昭和二十六年を五十周年としたそうです。

（和田） 九十周年の時は、私たちの学年が担当で。「にいなな会」で、黄色（帽子の黄線）と白（女学校の校舎）の法被を作って提灯行列をしました。

気になる男女交際 果たしてその実態は？

（徳永） 男女共学になって、男女交際はどうでしたか。

（加藤） 男女交際といえるかどうか分りませんが、クラブ活動を通じて、男女が親しくなり、卒業しても手紙をやり取りするなど親しい付き合いをされていたようです。


森内　幸江 さん

（徳永） 私は、柔道一直線でクラブ活動に没頭して、女性どころではありませんでした。

（吉田） そう言えば、徳永さんが同級生結婚の一番手じゃなかったですか？

（徳永） そうではありませんが、私たちの学年では、同級生同士の結婚が多かったですね。

（和田） ○○さん夫妻や○○さん夫妻など結構おられましたね。

（加藤） ○○君と○○さんは、幼稚園に通うころから仲良しでした。小学校、中学校、女学校と別々でしたが、高校三年でよううやく一緒になって、卒業後結婚された。「いいなあ」とみんな憧れましたね。

（和田） 私たちの学年になると、雨の降る日は相合傘もしました。駅まで一緒に楽しかったです。

（野田） 男女共学の第一号でしたが、ロマンスの話はなかったが、随分と仲良しでした。よく、自転車に乗って出かけて遊んだものです。夜、松岡君の家でクリスマス会もしました。投扇競というゲームで盛り上がりました。男性女性とあまり意識せず付き合えたクラスでした。


和田　恭子 さん

（加藤） 正直、男女組のクラスがうらやましかったです。

（野田） 加藤さんのクラスは、女子ばっかりでしたので、男子から結構もてていましたよ。そうですよね、平岡さん。

（平岡） そら知らん。（笑）

（加藤） 男子だけのクラスの前の廊下を通る際、下を向いて緊張して歩いていました。今の人たちじゃ解らんですよね。

（徳永） みんな付き合い下手だったんですよ。

（蓑田） 昭和二十四年に「青い山脈」が映画化されて、その影響もあったんでしょうね。

（和田） 男女共学になって、男子のギャグに刺激を受けました。「トントントンカラリンと隣組、きゃくされからいもまた配給。回して頂戴回覧板、きゃくされからいも、もういらん」と歌って、楽しませてくれました。

（満田） 私たちは男女共学ではなかったので、ただ、女学校生を眺めているだけでした。和田さんとは、家族ぐるみの付き合いだったが、話した記憶がありません。

（和田） そう言えば、よく泊まったりして一緒に夕飯や朝飯を食べていましたが、話してませんね。

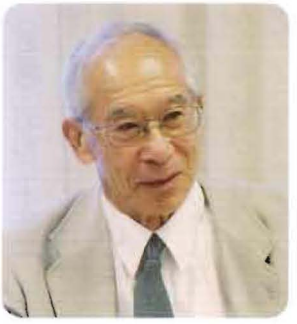
（満田） 今日初めて和田さんと喋りましたね。（笑）

（蓑田） 小さい時から「男女席を同じゅうせず」の教えだったですね。それと、当時の風潮として、女学校の方は卒業したら、結婚適齢期でしたからね。

（吉田） 中学校の屋上から「誰々さん好きです」と、手旗信号が送られてきていました。私たちは読めたのですが、上級生は読めなかったので、読んで知らせてあげました。そうすると上級生が「いらんことしなすな」と言って怒っていました。

（和田） 女学校時代は、男女交際というより、姉と妹の関係のように、女子同士で文通して仲良かった。その関係をS（シスター）と言っていました。私は先輩のSの提灯持ちをやらされ

ていました。



石坂　道行 さん

戦後の混乱
多くの学友が、
戦地から帰ってきた

（満田） 戦後は、予科練帰りが、暴れまくっておごつでした。私たちの一級上の先輩たちは強制的に予科練に入らなければならなかったですからね。当時は、中学校に入ると、幼年学校、少年飛行兵、予科練へ強制的に入らなければならなかった。十五歳で少年飛行兵に入り、亡くなられた先輩もいました。だから帰って来てから暴れたんです。

（徳永） ある先輩は、予科練から帰ってきて、中学校に復学したいと願い出たが、校長が認めなかったので、「お前たちは、予科練に行く時なんて言ったか」と、怒って椅子を持って、校内中追いかけて大暴れされた事件がありました。

（野田） あの頃は大変でしたね。女学校の四年生の時、満州から引き揚げてこられた人がいましたが、髪が断髪でした。

（吉田） 丸刈りの人もいましたね。



司会：徳永三幸 さん

（徳永） 戦後時代は大きく変わりましたが、授業の状況はどうでしたか？

（野田） 戦前は、青春時代に戦争に巻き込まれ、お洒落もできず勉強もできず、なんでこんな時代に生まれてきたんだろうと悔やんだこともありました。戦後教育改革があって、私たちの二級上の人たちと随分価値観が変わったと思います。戦時中、軍事色一色だった学校が、戦後、民主主義へ大きく転換しました。男女共学の第一号でもありました。今となってみれば、誰も経験もしたことのないいろいろな体験をさせていただいたと、喜んでいます。先生のなかで一番心に残っている方は、生物の森先生でした。戦時中、勝った勝ったと日本中が浮かれていた時代「この戦争は絶対負ける」とおっしゃっていました。あの頃は、びっくりしましたが、今となれば、女学校には、世の中をしっかり見つめていた、あんな気骨のある先生がおられたのかと感心しています。



岡山　元紀 会長

（徳永） 中学校に入学してから、まず一時限目の授業は、教科書の墨塗りでした。同時に、先生方の指導方針が一八〇度変わった瞬間でもありましたね。ところで、私は、修学旅行に行った経験はなかったのですが皆さんはどうでしたか。

（吉田） 阿蘇に行ったり鹿児島へ行ったりしました。阿蘇は、夏の制服で、白シャツとスカートをはいて、馬の背を登った写真があります。栃木温泉に泊まりました。

（和田） 鹿児島へ行った時は、お米を持って行きましたね。

（森内） 桜島へ登ったり、城山公園で写真を撮ったり楽しかったですね。

（平岡） 修学旅行はなかったので、卒業してから、みんなで京都に行きました。確か、男女一緒になって、修学旅行に行けたのは、高校十三回からだと思います。それまでは、男女別々でした。

（石坂） 修学旅行は女生徒だけでした。五十歳を過ぎてから、修学旅行の話が持ち上がり、男女約三十名でハワイ旅行をしました。

（徳永） 八代中学・高女・高校ともに伝統校で、いい先輩や友達に恵まれました。しかし、一番は「いい先生」に恵まれたことだったと思います。いい先生と出会って、いい仲間が育ち、いい学校ができた。いい先生、素晴らしい先生、そして、今も続くいい仲間たちとのつながり。これが、伝統校といわれる八代高校の所以でしょう。

本日は、お忙しい中、座談会に参加していただきありがとうございました。



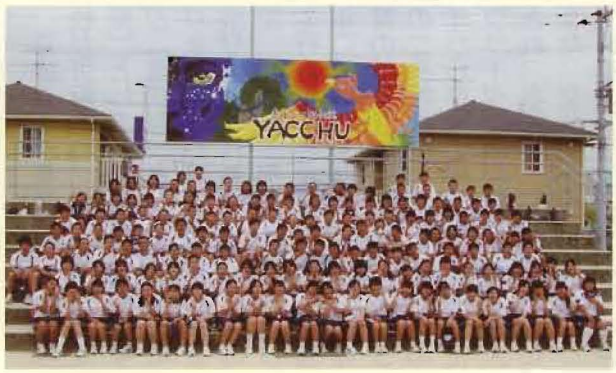
母校だより

開校二年目を迎えて

八代中学校　教頭　里永典隆

第二回入学式

平成二十二年四月八日、二回目となる入学式が行われ、二期生八十名が入学しました。これで二学年が揃い全校生徒も百六十名となりました。



第二回鳳雛祭（体育の部）（H二二・五・九）
中学校シンボルと全校生徒一六〇名

特色ある教育活動

開校二年目を迎え、本校教育活動も一層充実の時期を迎えています。

本校では、中高一貫教育校の特色を生かした様々な教育活動を行っています。学力の充実はもとより、中高の交流による人間力の育成など「生きる力」の育成に努めています。そのいくつかを紹介したいと思います。

①ピア・サポート活動

ピアとは仲間という意味で、高校二年生のサポーターが中学一年生の学校生活などの悩みや相談にのるという活動です。毎月1回、定期的に活動を行っています。



ピア・サポートの様子

②NIE全国大会への参加

七月二十九・三十日に行われたNIEの全国大会に中学一年生と高校一年生四十名が参加し、合同授業を行いました。



発表する中学生と高校生

③熊本大学発生医学研究所訪問



説明を真剣に聞く中学生

中学一年生では熊本県立大学訪問を行い、中学二年生は熊本大学発生医学研究所の訪問を行いました。最先端の研究の一角に触れ、すばらしい経験ができました。

第二体育館・技術棟完成披露式（７月８日）

待ちに待った第二体育館・技術棟が六月に完成し、それに伴い七月八日に瀬口春一高校教育課長様、後藤泰之施設課長様、岡山元紀同窓会会長様御臨席のもと、完成披露式を挙行しました。

これまで、第一体育館を高校と共用し、授業や部活動などで不自由な面もありましたが、完成により解消されました。

また、技術棟の完成により、カリキュラムをやりくりして対応していた技術の授業も、ものづくりの領域が実施できるようになりました。

施設の完成により、さらに充実した教育活動が実施できると生徒職員一同大変喜んでいます。



完成した第二体育館



技術棟（１階:技術室、２階:学習室）



挨拶をされる瀬口高校教育課長

終わりに

来年度新入生が入学すると、いよいよ三学年が揃います。今後とも同窓生の方々の御支援をよろしくお願い申し上げます。

鳳雛祭（ほうすうさい）（体育の部 文化の部）等について

文責　生徒自治会顧問　小田原　晃

一、鳳雛祭（体育の部・文化の部）の歴史について

平成二十一年度から八代中学校が併設され、これまで『八高祭』として親しまれてきた行事が『鳳雛祭』として生まれ変わりました。以前は八高祭一部が祭りの部、八高祭二部が文化の部、八高祭三部が体育の部として行われてきました。平成十四年になり、それが八高祭一部（体育の部）と八高祭二部（文化の部）の二部制に変わりました。この年から祭りの部で行われていたフリーダンスが体育の部で導入され、名物の一つとなりました。また、文化の部の楽しみの一つである『フリーステージ』も祭りの部の名残を今に受け継いでいると言えます。

二、『鳳雛祭（体育の部）』について

平成二十二年度の『鳳雛祭（体育の部）』ではテーマを『翔はばたき』とし、前年より一層進化した体育大会となりました。

一つの鳳雛祭（体育の部）の名物となったのが、午前中最後を締めくくるマスゲームです。昨年行った集団演技による力強さや躍動感に加え、女子生徒によるダンスが華やかさを演出してくれました。今回のダンスは『くまもと未来国体』の開会式で披露された演技をベースにして、中学校体育科の松田直子先生を中心に振り付け指導をしていただきました。また、マスゲームのフィナーレには八段の高さにもなる人間ピラミッドが完成しました。体育科主任の井村先生の熱心なご指導のおかげで感動的な午前の締めくくりとなりました。



中学生も二年生まで揃い、今年は中学団席のシンボルもデザインから着色までかなり中学生が頑張ってくれました。また、今年の新種目『竹取物語』では、かなり激しい戦いぶりを披露してくれました。

その他にもこれまで体育の部で名物となっていた応援団演舞、フリーダンス、シンボルと例年以上の完成度の高さを見せてくれました。限られた練習・準備期間の中で非常に高いレベルまで完成させることができる八高生の素晴らしさには毎年感心させられてきました。そして八中生もその伝統を引き継いでいます。

三、『鳳雛祭（文化の部）』について

平成二十二年度の鳳雛祭（文化の部）はテーマが『翔』、サブテーマが『Let's jump to the future（未来へ飛躍しよう）』として取り組みました。また展示の部では『日本』をテーマとし、様々な展示を楽しむことができました。この文化の部でも前年以上の文化発表となりました。

ピアノ連弾によりオープニングが幕開けし、学校長、中高生徒自治会長の挨拶の後、書道部、詩吟、放送部のすばらしい発表に加え、今年は生物研究部の『カラスの成長と観察』の報告もありました。学校の中庭に巣を作ったカラスの様子を生物研究部の中学生が中心となって観察し、すばらしい報告になりました。



演劇部の発表やフィナーレの合唱部、中学吹奏楽部、高校吹奏楽部の演奏も例年以上に感動を呼びました。

恒例の食品バザーも様々な工夫が見られ、高校二年生七クラスとも大好評でした。また食物・手芸部もカレー三百食を手がけ、早朝六時からの大がかりな仕込みも頑張ってくれました。例年の保護者の皆様の御協力も大変ありがたく、今年も冷やしうどんや合格弁当、五種類のパンの販売も大評判でした。

恒例の『フリーステージ』では中学生のエアロビダンスや歌の披露も加わり、さらに華やかさが増しました。三年生男子による『AKB四八』は老若男女を問わず、笑いを誘いました。

昨年から始まった『ミニステージ』も四グループがすばらしいバンド演奏を披露し、音楽室が熱気であふれました。

展示部門では『日本』をテーマに様々なアイデアが盛り込まれ、見る人を楽しませてくれました。今年はビデオ上映も多く、限られた時間でかなりの手の込んだ演出が見られました。

四、その他の学校行事について

クラスマッチは二年生が十月初旬、一・二年生が三月に丸一日かけて行います。クラスの親睦を深め、日頃のエネルギー発散の場としても大変有意義な行事の一つです。

また一昨年は谷口已三郎氏（八代中学四十一回卒）のご講演をきっかけとして、支援募金を実施しました。文化祭食品バザーの売上金と合わせてタイの谷口農場に送り、そのお金を植林活動に生かして頂きました。このことでタイ奥地に『八代高校・八代中学校記念の森』と名前の付いた森が作られました。

今後も八代高校・八代中学校の生徒たちがこのような行事を通して成長していくことを期待しています。

八代高校部活動

運動部活動について

○現　状

現在、八代高校運動部活動は、男子十六クラブ・女子十三クラブの計二十九クラブが日々の活動に励んでいる。

部員数や加入率は左表の通りである。男子生徒の加入率は高く、日常生活においても多くの場面でリーダーシップを発揮してくれている。女子生徒の加入率は四割程度であり、前年と比較すると急速に低下した。しかし、部員達の意欲は旺盛であり、八高の伝統をよく継承している。

どの部活動も充実した活動を続けている。



生徒数(人)と学級数				
	1年	2年	3年	合計
男子	139	160	134	433
女子	149	122	147	418
学級数	7	7	7	21

運動部活動への加入者数(率)					
		1年	2年	3年	合計
男子	加入数	119	123	108	350
	加入率	86%	77%	81%	81%
女子	加入数	67	52	53	172
	加入率	45%	43%	36%	41%
合計	加入数	186	175	161	522
	加入率	65%	62%	57%	61%

○最近の活動状況

昨年度の秋以降の活動状況を振り返ってみる。

平成二十一年秋、陸上競技部の男子が八〇〇mで九州大会に出場したが、他競技の新人戦での目立った活躍はなく、一昨年と比較すると低調な滑り出しとなった。

しかし、平成二十二年度の高校総体においては、多くの部活動が奮起した。まず、陸上競技部が複数種目で南九州大会に出場を果たした。また、弓道部女子や空手道部が九州大会出場を果たしており、水泳部においても複数種目で九州大会出場を果たした。



上位大会進出はならなかったが、サッカー部の躍進には目を見張るものがある。強豪を相手に四強を賭けた戦いを繰りひろげており、今後の活躍に大いに期待が持てる。柔道個人でも上位へ進出する選手が見られ、ハンドボール部や卓球部も団体ベスト8に進出する活躍を見せた。

文化部・同好会活動について

○現　状

現在、十六の部活動と二つの同好会がある。全体の約三割の生徒が文化部に加入している。他の部と掛け持ちし、幅広く活動を行っている生徒もいる。

○最近の活動状況

(平成二十一年九月～平成二十二年九月現在)

また八代中学校の合唱部、吹奏楽部、科学部、美術部など中学生と共に活動を行っている部もあり、中高一貫校のよさが最大限に生かされている。

文芸部は、九州高文連文芸大会及び第十一回高校生文芸道場九州ブロック大会に熊本県代表として出場し、文芸部誌部門第一席入選(文芸誌「白鷺六十四号」)、短歌部門は第一席入選を果たした。その他文芸道場総合大会出場(全国大会)、全国高校総合文化祭宮崎大会出場。



放送部は、NHK杯全国高校放送コンテスト熊本県大会ドキュメント部門一位、創作ラジオドラマ部門二位を受賞し同部門共に全国大会出場。九州高校放送コンテスト沖縄大会でラジオ部門優勝、全国高校総合文化祭宮崎大会にてビデオメッセージ部門に出場するなど成績を残している。

吹奏楽部は県吹奏楽コンクール悲願の金賞を受賞した。合唱部は県合唱コンクール銀賞。また両部活動共に様々な式典や行事にて会場を盛り上げてくれている。

書道部は、県高校書道展最優秀賞、全国高文連宮崎大会出場、県高校揮毫大会第二位、県日中友好書道展TKU賞、全国高校大学書道展優秀賞など成績を残している。

生物研究部は、県高校生理科研究発表会で生徒部長賞、県科学研究展示会で熊日ジュニア科学賞を受賞した。

美術部は、県高校美術展で優秀賞、九州高文連沖縄大会出場。その作品は県議会議長応接室に展示され、県議会議長より感謝状をいただいた。3月末には八代のギャラリーにて美術部展を開催した。県高校生写生大会で準特選、八代亜紀絵画コンクールで八代亜紀賞、読書感想画コンクールその他公募展で入選。

物理研究部及び天文部は両部ともに県生徒理科研究発表会にて優秀賞を受賞した。

囲碁・将棋同好会は、県総文祭将棋部門個人戦でベスト4。

その他演劇部、化学部、JRC、ESS、人権問題研究部、食物・手芸部、茶道・華道部、漫画研究同好会などもそれぞれの場面においていきいきと活動を行っている。また、八高には詩吟部はないが、全国総文祭吟詠剣詩舞部門に熊本県合同チームとして、三年連続出場している生徒もいる。その他多数素晴らしい成績を残し、きらめく知性と豊かな感性を発揮し日々磨き続けている。

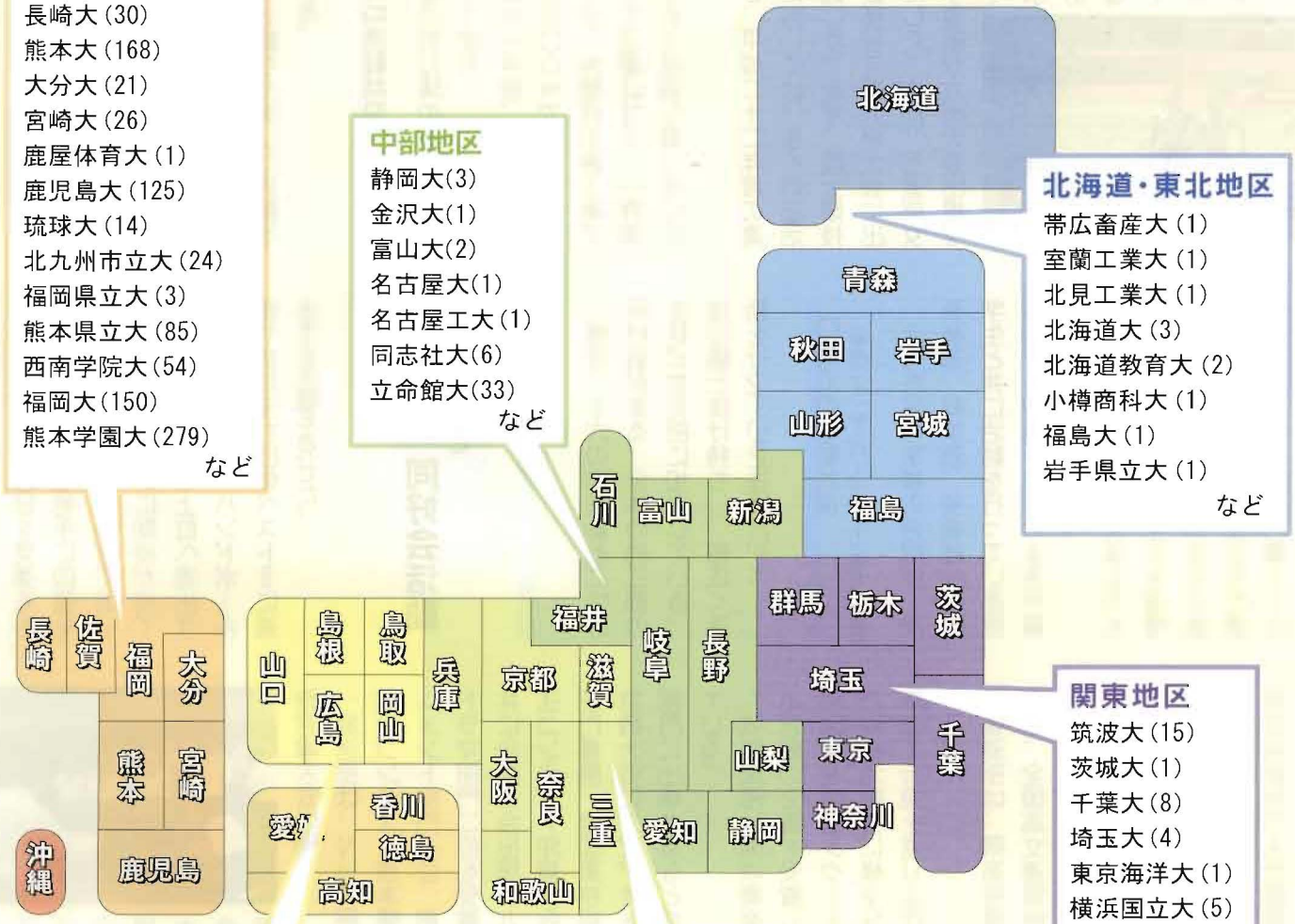


進路状況

熊本県立八代高等学校　進路指導部

毎年高い志を掲げて努力していく生徒達。先輩達の頑張る姿を見る後輩達、脈々と続く八高の伝統。下の図は、過去5年間で先輩達が合格した足跡をマップにしたものである。全国の様々な大学に進み活躍している。後輩達も是非この後に続いて欲しい。

本校生の進路希望の約98%が進学を希望し、そのうちの80%が国公立大学を希望する。そして、50%前後が国公立大学の現役合格を達成している。さらなる飛躍を目指して、日々の授業・課外に真剣に取り組み、様々な行事を通して進路意識の向上を図っている。



九州地区

九州大 (46)
九州工大 (10)
福岡教育大 (17)
佐賀大 (38)
長崎大 (30)
熊本大 (168)
大分大 (21)
宮崎大 (26)
鹿屋体育大 (1)
鹿児島大 (125)
琉球大 (14)
北九州市立大 (24)
福岡県立大 (3)
熊本県立大 (85)
西南学院大 (54)
福岡大 (150)
熊本学園大 (279)
など

中部地区

静岡大(3)
金沢大(1)
富山大(2)
名古屋大(1)
名古屋工大(1)
同志社大(6)
立命館大(33)
など

北海道・東北地区

帯広畜産大 (1)
室蘭工業大 (1)
北見工業大 (1)
北海道大 (3)
北海道教育大 (2)
小樽商科大 (1)
福島大 (1)
岩手県立大 (1)
など

関東地区

筑波大 (15)
茨城大 (1)
千葉大 (8)
埼玉大 (4)
東京海洋大 (1)
横浜国立大 (5)
電気通信大 (3)
東京工業大 (1)
東京学芸大 (1)
首都大東京 (2)
横浜市立大 (3)
慶應義塾大 (8)
早稲田大 (18)
明治大 (32)
中央大 (23)
など

中国・四国地区

鳥取大 (9)
島根大 (4)
岡山大 (3)
広島大 (25)
山口大 (21)
愛媛大 (3)
高知大 (6)
岡山県立大 (4)
県立広島大 (2)
広島市立大 (3)
下関市立大 (6)
など

近畿地区

京都大 (4)
大阪大 (7)
大阪教育大 (3)
奈良女子大 (2)
奈良教育大 (1)
神戸大 (3)
和歌山大 (1)
神戸市外大 (1)
など



●集団勤労奉仕作業

～郡築堤防補強工事～

昭和十三年四月一日国家総動員法が公布され、六月九日文部省は各府県に集団的勤労作業運動実施に関する件を通達。県はこれを受けて、各中学校に集団勤労作業実施要綱を通達した。七月には県下中等学校の夏期集団勤労作業が競って行われた。本校では次のような内容で学校をあげて取り組んだ。

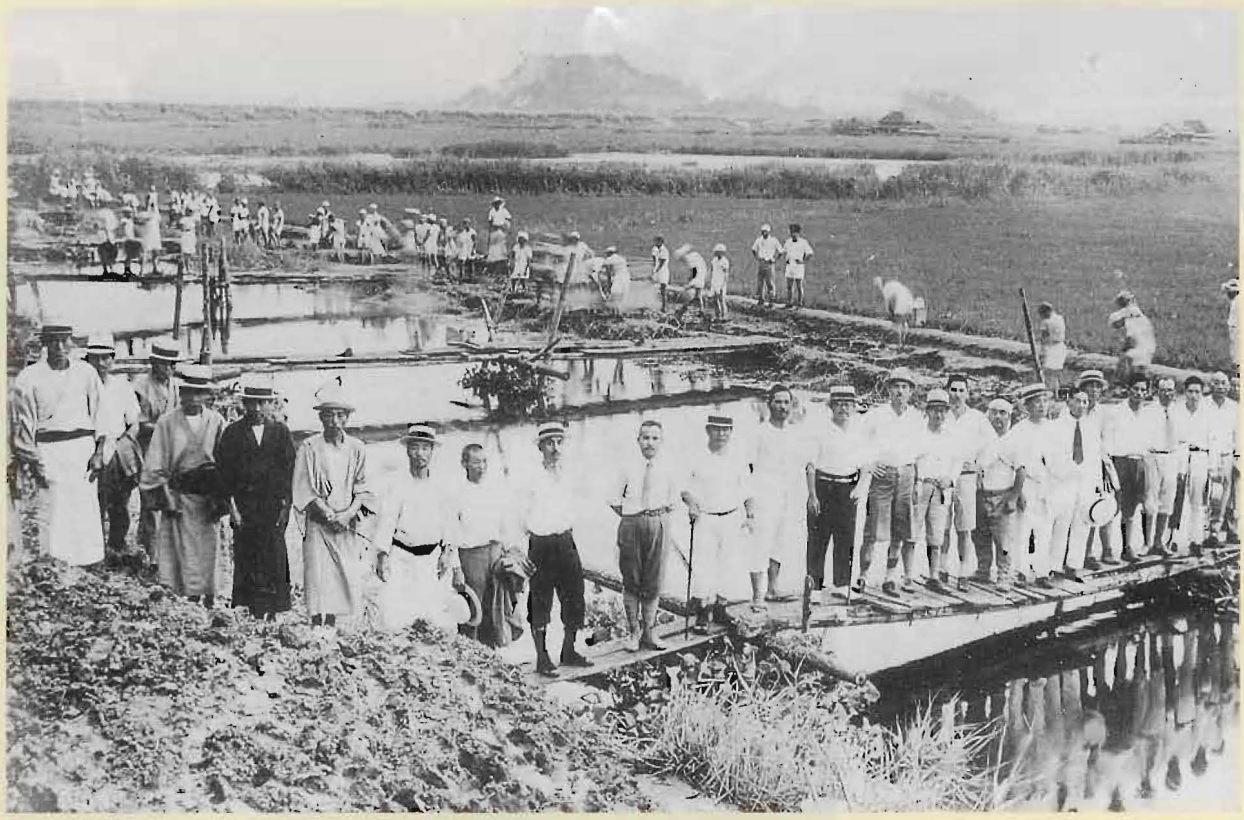
(1) 場所ならびに作業の種類
八代郡郡築村白島以西堤防堤防の補強工事ならびにこれに関する測量

(2) 期日
昭和十三年七月二十五日より八月七日まで

(3) 作業の種類の配当
一、測量班　第五学年一組より　二十五名（全期間中）
二、補強工事班　1以外全生徒八百三十名
三、機械班　上級生より十名
作業従事期間は第三、四、五学年は四日間。第一、二学年は三日間。

(4) 宿泊　作業地近くに設営された天幕宮舎。
木庭校長の「白鷺五五号」（十四年三月刊）の文章によれば、「場所は白島の西方、郡築一番割の堤防の北側であった。原田氏の隣接地、清水湧く池の辺りに亜鉛葺きの炊事場が手際良く建てられ、五つの大釜は据えられ、食器棚が作られたのは愉快であった。隣のからいも畑に便所が設けられたのは場所を得たとは言えなかった。堤防に沿うて職員の天幕や訪問者の天幕が作られ、さらに生徒のテントが十張りほど並列しており、土手の上に『八中勤労奉仕隊』の大旗と国旗が掲揚されているのは威勢のよい感じが深かった」

(5) 日課表
(一) 起床五時　(二) 朝礼五時半：宮城遙拝・国旗掲揚・国歌斉唱・校長訓話・集団体操。(三) 朝食六時※二十名の炊事当番は毎日交代で午前三時に起床して、百三十名から二百名以上の賄いの仕事に当った。(四) 作業七時～十時　(五) 昼食並びに休憩十一時半～十四時半　(六) 作業十四時半～十六時半　(七) 飯盒炊さん十六時半～　(八) 夕食十八時　(九) 夜の行事：訓話、静坐、レコード鑑賞、詩吟、感想談又は座談会、日記記入　(十) 点呼二十時半　(十一) 就寝二十一時※就寝中は生徒不寝番二名を立てて一時間交代とする。



●生徒心得（昭和二十年）

生徒心得は訓育の上で重要であったが、次に戦争末期昭和二十年の入学生に示された生徒心得を記す。

印刷などもままならぬ時で、新入生栗田欣次さん（高三回）のメモ書きによる。

（カタカナをひらがなに改めています）

一、学校往復の際は特に言動を慎み、左側通行を厳守すべし
二、飲食店に出入りし又は買食いをなすべからず
三、背嚢又は雑嚢は常に正しく負うべし
四、登校下校の際は常にゲートル（巻脚絆）を着用すべし
五、雨天の場合は下駄を履くことを得、一般に雨傘を所持する場合は下駄履きも可なり
六、書店の店頭にて書籍雑誌の立読みをなすべからず。書店に立寄る場合は予め級担任教師に届出づべし
七、汽車通学生は特に交通道徳を厳守すべし
八、服装は常に厳正なることを要し、外出の際は制服制帽たるべし
九、外套、襟巻、手袋、足袋等の使用を禁ず
十、外出の際は行先及び帰宅時刻等を必ず家人に予め告げて置くべし
十一、夜間の外出の際も右に同じ
十二、映画館、劇場等その他不健全なる場所に立入るべからず
十三、友人等の宅に外泊すべからず
十四、写真機は所持を禁止す
十五、熊本等に行く場合は予め級担任に申出て許可を受くべし
十六、勉学の後には家の手伝いをすべし

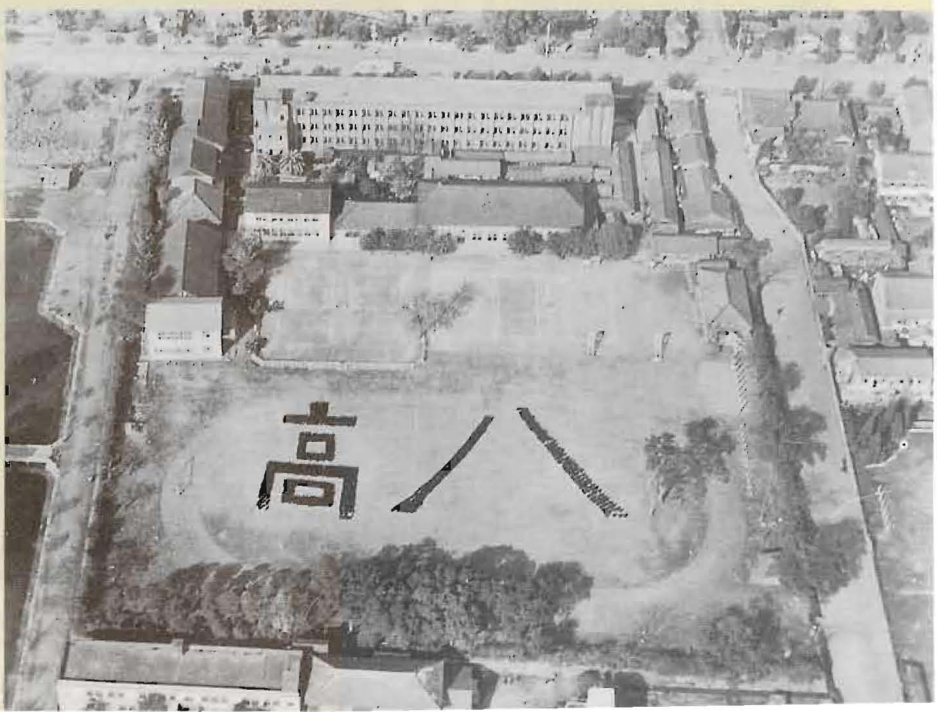
『八高百年史』
（平成九年刊行）より

●航空写真による校舎全景

昭和二十年代の八高校舎です。現在八代市役所となっている場所でした。

北側上空から撮影されたもので、右手に八代宮のお堀が見えます。





▶こちらは昭和三十六年に撮影されたものです。上の写真とは逆に南側上空から撮影されています。右上の少し曲った道の形は現在も同じです。

右側にあった白百合学園高校は昨年、新八代駅の近くへ移動しました。

この時、人文字に参加した方の「想い出」がありましたら、お便りください。

頑張ってます！

～高8回の画家～

赤崎 一雄

「落ち葉は魔法のランプ」



葉っぱで描いた絵

いま「落葉は魔法のランプだよ」なんて言っても、子どもにも相手にされないでしょう。でも実はそうではなく、夢を育む要素が落葉にはいっぱいあることをみんな知らないだけのことです。昨年九月ANA(全日空)の主催による絵本の募集がありました。子どもたちにもわかりやすく地球の大切さを表現することが条件の第七回地球環境国際絵本コンクール。「私の青い空」を主題に世界主要国に呼びかけたものでした。私も思い切って落葉で挑戦することにしました。

私と落葉のつきあいは一九八二年。宇土の轟水源あたりの山道を歩いていたら、とてもきれいな落葉に出会いました。私は丁度その頃、人生のどん底。さもしい気持ちになって「このタダみたいな落葉、なにかに使えんだろか」とこっそり持帰りました。まさかこれが絵画教室の始まりになろうとは。私にとって落葉は、まさに魔法のランプになったのでした。



私の絵本のタイトルは「桜の青い空」。主人公の桜には小学三年生の私のかわいい孫娘がモデルになりました。物語はまず夢の中から始まります。桜が落葉をチリトリに入れようとすると、



受賞した絵本

「桜ちゃん、おいらを捨てないで」と落葉が言いました。桜はもうビックリ。でもこれがきっかけで桜は、青い空の秘密を知ります。さて桜のとった行動とは…。

ANAからグランプリの知らせが届いたのは今年の一月四日。正月早々、夢にも思わない吉報に思わずとび上がりました。三月三日に羽田空港で卓球の福原愛ちゃんなどから花束などを戴きウキウキ。絵本はC・W二コルさんにより英訳され、六月から機内誌ともども大空に舞い上がり、世界へ旅立ちました。

現在は高度な情報化社会。ハイテク時代になりました。しかし、地球温暖化などグローバルな問題なども抱えていてとても落葉などにかまう暇などないかもしれません。でも木の葉の舞い散るマリモのような地球が蘇生すれば、桜の青い空が生きづき、たかが落葉どころか、温暖化など消しとんでしまう魔法のランプになるのです。先を急ぐばかりが能じゃありません。時にはのんびりランプでも研きながら、おだやかな地球人になってみたいものですね。

完

～高38回の気象予報士～

平井 信行



八代高校同窓生の皆さんも元気にお過ごしのことと思います。私はNHKの気象予報士を担当してお蔭様で十五年になりました。こうして、子供の頃からの気象予報士になる夢が実現し続けていられるのも、私を育てていただいた母校があるからだと思っております。時折、八高の校歌「道」を口ずさみ、自らを奮い立たせることがあります。私の好きな歌詞は〝あこがれと高き望み胸に抱き永遠に永遠に進まん〟です。これを心の中で唄うと、私がこの道に進んだ原点に帰ることができます。八高の在校生の皆さんも、是非、夢を持って努力していただきたいと思います。



子どもの頃、夢を描いた絵

現在、私が出演しているNHKの番組は、月曜日から金曜日の夜九時台の「ニュースウオッチ9」という番組の中の気象情報です。アニメキャラクターの「春ちゃん」、「夏将軍」、「熱中将軍」、「秋ちゃん」、「冬将軍」を使って季節感を出し、また、タッチパネルの画面を使って指し棒で触れた部分に晴れや雨、雪などのマークを自由自在に動かしながら表示しています。親しみやすくわかりやすい気象情報を目指しています。どうぞご家族でご覧になっていただければ幸いです。もちろん熊本の天気も当てるように頑張ります！

ところで、私が八代にいた時の天気の思い出は、梅雨の雨がとにかく激しいことです。梅雨に大雨が降る時は湿気が多く、八高で授業を受けているとシャツが肌にべっとりと密着するほどでした。七月の八代の月降水量は約四〇〇ミリです。七月に限れば、全国の中でも豪雨地帯です。梅雨前線に流れ込む暖かく湿った空気のことを「湿舌」といいますが、大雨の際には湿舌がベンガル湾から中国を通って八代に流れ込み、半端じゃない蒸し暑さとあたりが真っ白になるくらいの豪雨をもたらします。梅雨時、湿舌が流れ込んでくると、「八代はどぎゃんだろうか。球磨川の水は大丈夫だろうか。」と東京のNHKのスタジオからいつも心配しています。遠く離れて暮らしていても、八代のことはいつも心の中にあります。



平井信行氏のホームページ
http://www.soramite.com/

八代だより

八代市内が銀世界に

一月十三日に県内に降り積もった雪は、市内平野部でも一面の銀世界となりました。

十数年ぶりとなった雪は平野部でも十センチほどの積雪となり、町並みは美しく雪化粧、国指定名勝の松濱軒や八代城址も、まるで雪国のような静かなたたずまいを見せていました。



九州国際スリーデーマーチ2010

今年で十六回目となる「九州国際スリーデーマーチ2010」が五月七日から九日まで開催され、八代市の球磨川河川緑地を主会場に約二万人が新緑の八代路に設けられた五～四十キロの十二のコースを楽しみました。本大会は今年、国内二か所目の国際マーチングリーグ公式大会の認定を受け、海外十一カ国から一八二人が参加されました。

なお、八日には八代よかとこ大使として同大会に参加されていた八代亜紀さんのデビュー四十年を記念したチャリティーコンサートが厚生会館で開催され、「なみだ恋」や「雨の慕情」などのヒット曲の熱唱や軽妙なトークに会場は暖かい雰囲気に包まれていました。八代さんから百万円が市に寄付され、「お年寄りや子どもたち、障がいのある人たちに役立て下さい」と話されました。



第八回城下町「やつしろ」のお雛まつり

八代に春の訪れを告げる、城下町「やつしろ」のお雛まつりが、二月十三日から三月七日まで開催されました。初日は、本町アーケードでオープニングセレモニーが開催され、牛車・お内裏様パレードなどの華やかな出し物に、買い物客などが足を止めて見入っていました。

期間中、日奈久温泉センターや松濱軒など、市内各所でお雛様の展示や様々なイベントが開催されました。



ウエスタンリーグ公式戦

五月二日、プロ野球ウエスタンリーグ公式戦「福岡ソフトバンクホークス対阪神タイガース」の試合が県営八代運動公園野球場で行われ、約六千人の観客から熱い声援が送られました。大会開催十周年を記念し、ソフトバンクホークスへ感謝状が贈られたほか、二軍で調整中の松中選手も出場、地元出身の主力選手の登場に、観客席はいつも以上に盛り上がりました。

また、八代でのプロ野球公式戦開催十周年を記念し、七月二十五日、厚生会館で、前ソフトバンクホークス監督で同球団会長の王貞治さんのトークショーが行われ、親子連れなど約八〇〇人が王さんの話を熱心に聞き入っていました。



日本を代表する女子柔道家八代に集う



今年九月に東京で開催された世界柔道選手権大会を前に、六月九日から十四日まで、全日本女子柔道強化合宿が市総合体育館で開催されました。

合宿には、鏡校区出身の岡村智美選手や郡築校区出身の立山真衣選手を含め、日本を代表するトップクラスの選手たち六十五人が参加。筋力トレーニングや技の稽古に汗を流し、観客席から大きな声援を受けていました。

全国中学校体育大会で四中相撲部初優勝

八月十九日に鳥取県で開催された全国中学校体育大会において、八代四中が、相撲団体及び個人戦でも古川晴貴選手が優勝し、その栄冠を胸に、二十七日、"中学横綱"となった、古川晴貴選手から「みんなの応援のおかげで優勝できました。ありがとうございました」と福島市長へ感謝の報告がなされました。



八代港重点港湾選定

八代港が国の「重点港湾」に選定されたのを記念して、八代港を活かしたこれからのまちづくりを考えようと、八月二十六日、八代ロイヤルホテルで記念セミナーが開催され、世界の港湾の状況や、これに対応する日本の港湾戦略のほか、東アジアに向けた九州の港湾の展望。そして、八代港の現状や課題等が紹介され、政策実現のための具体策など参加者は熱心に聞き入っていました。



輝け未来のオリンピック選手たち

八月十三日～十五日に全国小学生ABCバドミントン大会が市総合体育館と東陽スポーツセンターで開催されました。この大会は、スポーツの振興と地域の再生を推進するために開催されるもので八代市では今回で四回目の開催となります。各コートでは白熱した試合が繰り広げられ、Bクラスでは地元熊本代表の西村彩花選手（八代小学校）がベスト8に輝きました。



第二十三回やつしろ全国花火競技大会

八代の秋の恒例行事となっている全国花火競技大会が、十月十六日、球磨川河川緑地で開催されました。

今年は、来年三月に九州新幹線が全線開業となるプレイベントとして開催。全国二十社の花火師たちが技術の粋を集めた、約一三、〇〇〇発の花火が次つぎと打ち上げられ、県内外から訪れた約二十九万人の観客が、八代の秋の夜空に描かれる色とりどりの花火に酔いしれました。



八代白百合学園高校吹奏楽部快挙

九月七日、市役所ロビーで創部二十年目となる八代白百合学園高校吹奏楽部のミニコンサートが行われました。これは、八月に行われた第五十五回九州吹奏楽コンクールで金賞を受賞し、「吹奏楽の甲子園」と称される第五十八回全日本吹奏楽コンクールへの初出場を決め、報告を兼ねて開催されたもの。全国で出場できるのは二十五校、九州からは三校だけ。ミニコンサートでは、課題曲や「サンバおてもやん」など四曲が披露され、集まった観客から盛大な拍手が贈られました。



校歌

八代中学校

作詞　八波　則吉
作曲　橋本　正憲

神さび立てる龍峰の
雄々しき姿仰ぎ見て
剛健の意気養ひつ
今こそ潜め健児我が
風を呼び又雲を呼び
天に翔らん日を想ふ

夕葉の川の背を早み
巌に吼えて岸を噛み
昼夜を捨てず滔々と
末不知火の海に入る
不断の流れかへりみて
進取の気象胸に満つ

八代宮の鎮座ます
神域近き学び舎に
日進の学修めつつ
文武両道日に励む
健児が理想人問はば
純忠至誠これぞこれ



『昔は龍峯山も更に身近く、公私・慶否に拘わらず、涙を流して唱和した想いあり。』

八代中学三十七回　緒方　基一

八代高等女学校

作詞　森迫　武
作曲　犬童　球渓

木綿葉の流れ
そうそうと
あわれ美妙の響あり
麓の桜爛漫と
げに天真の姿なり

すめらみさとし
身にしみて
真美の道を辿りなば
名は白雲とたなびきて
清く朝日に匂ふらむ



『夕葉の流れを歌う度、佐々木栄一先生の指揮をされる姿を思い出します。』

高女三十三回　佐渡ノブ子

平成21年度八代高校同窓会会計決算書

(1) 収入の部（単位：円）

費　目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘　要
繰越金	20,988,850	20,988,850	0	平成20年度より繰越し
年会費	5,000,000	9,476,000	△4,476,000	3,167名分
入会費	1,820,000	1,820,000	0	5,000×364名分(うち中学80名)
雑収入	291,150	393,636	△102,486	緑化事業会計繰入・預金利息・名簿代
合　計	28,100,000	32,678,486	△4,578,486	

(2) 支出の部

費　目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	摘　要
会議費	400,000	106,029	293,971	会議諸経費
印刷費	200,000	99,372	100,628	総会等案内状
役務費	800,000	570,269	229,731	郵便・電話・広告・振込手数料,HP管理費
広報費	4,000,000	3,916,312	83,688	会報発行費・HP新規作成
備品消耗品費	280,000	276,988	3,012	用紙代・パソコン購入費
慶弔費	250,000	231,063	18,937	香典・電報代・記念品代
人件費	800,000	750,000	50,000	事務局手当
新入会員勧誘費	300,000	266,694	33,306	卒業証書入れ丸筒代・校歌CD代
旅　費	600,000	420,663	179,337	支部地区同窓会出席旅費
雑　費	500,000	121,620	378,380	花馬補助等
積立金	1,000,000	1,000,000	0	次回周年事業費（特別会計へ）
記念事業費	1,000,000	1,000,000	0	八代中学開校記念事業補助
予備費	17,970,000	0	17,970,000	
合　計	28,100,000	8,759,010	19,340,990	

(3) 収支決算の部

収入決算額	支出決算額	残　高	摘　要
32,678,486	8,759,010	23,919,476	平成22年度へ繰越し

年会費振込金額	人　数	残　高	10,000円	347名	3,470,000円
2,000円	2,790名	5,580,000円	12,000円	2名	24,000円
4,000円	9名	36,000円	20,000円	18名	360,000円
6,000円	1名	6,000円	合　計	3,167名	9,476,000円

平成22年度八代高校同窓会会計予算書

(1) 収入の部（単位：円）

費　目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減額(A-B)	摘　要
繰越金	23,919,476	20,988,850	2,930,626	平成21年度より繰越し
年会費	5,000,000	5,000,000	0	2,000円×2,500口
入会費	1,835,000	1,820,000	15,000	5,000×367名分(うち中学80名)
雑収入	95,524	291,150	△195,626	預金利息・名簿代
合　計	30,850,000	28,100,000	2,750,000	

(2) 支出の部

費　目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減額(A-B)	摘　要
会議費	400,000	400,000	0	会議諸経費
印刷費	200,000	200,000	0	総会等案内状
役務費	800,000	800,000	0	郵便・電話・広告・振込手数料,HP
広報費	4,000,000	4,000,000	0	会報発行費
備品消耗品費	280,000	280,000	0	用紙代
慶弔費	250,000	250,000	0	香典・電報代・記念品代
人件費	800,000	800,000	0	事務局手当
新入会員勧誘費	300,000	300,000	0	卒業証書入れ丸筒代・校歌CD代
旅　費	700,000	600,000	100,000	支部地区同窓会出席旅費
雑　費	500,000	500,000	0	花馬補助等
積立金	1,000,000	1,000,000	0	次回周年事業費（特別会計へ）
記念事業費	0	1,000,000	△1,000,000	
予備費	21,620,000	17,970,000	3,650,000	
合　計	30,850,000	28,100,000	2,750,000	

母校へ人工芝設置

同窓会事務局

今年の関西同窓会総会（六月五日）で岡山会長が「百周年、百十周年、そして県立八代中学の開校と記念事業が続いて同窓会の財政が厳しくなった。これからも母校の発展に寄与していくため年会費を導入した。ご理解とご協力をお願いします。」と挨拶された。その挨拶に心をうたれた小崎國人氏（高十四回）は母校へ自分にできる範囲内で協力したいと申し出られた。

七月二十日学校を訪問され、現場を見て回り、学校の要望を受けて今回の計画を立案された。

七月二十九日早朝から三十一日午前中にかけて、人工芝を校内四カ所に張られた。

体育館とトレーニング室横の約百平方メートルに長さ五センチ程あるロングタイプの人工芝。人工芝の間には、天然の砂を三センチ程と二種類のゴム状粒子二センチを敷き詰めてある。これにより人工芝が立ち、強度も増すとのこと。完成後、その上を歩くと足の裏には柔らかな芝のクッションが伝わる。ここは部活動での休憩やストレッチの場として有効利用できる。現在はテントを二張り置いて日陰を作ってある。

グランドのスタンドの東側に幅一・二メートルで長さが百十メートルの人工芝。こちらは長さ二センチ程度で天然砂とゴム状粒子をそれぞれ一センチ程ずつ敷き詰めてある。各部のジョギングや試走等に活用できる。ただ散歩しても楽しい。

これ以外に、野球場のダッグアウトと八代中学の新設された技術棟西側コンクリート製踊り場にそれぞれ、人工芝を施工。





▲ 小崎國人氏（高十四回）　写真中央





この工事に関して、当の小崎氏は「今回のことは、決して名誉欲や、自慢するたぐいのものではなく、私にとってこれから、一生懸命頑張るぞという、自分への挑戦と、今まで支え協力してくれた方々への、感謝を表すために工事をさせていただいた。」と述べられた。

◆平成22年度同窓会行事予定 (H22.4.1～H23.3.31)

平成22年(2010)

6月5日(土)　八代高校関西同窓会総会
6月6日(日)　八代高校岡山同窓会総会
6月12日(土)　会計監査
6月26日(土)　八代高校教育振興基金運営委員会
　理事会　総会議案審議（予算案を含む）
8月28日(土)　同窓会総会　八代ロイヤルホテル　高28回担当
10月9日(土)　八代高校関東地区同窓会総会　セルリアンタワー東急ホテル
10月23日(土)　八代高校同窓会熊本市支部総会　熊本テルサ
11月23日(火)　妙見宮大祭　花馬奉納
11月中旬　同窓会報「道」第2号発行

平成23年(2011)

2月12日(土)　八代高校同窓会福岡支部総会　於　福岡市　八仙閣
2月28日(月)　同窓会入会式　平成22年度卒業生（高63回）

◆各支部・地区同窓会連絡先のご案内

■八代高校関東地区同窓会 事務局:中村　静雄(高19回)
〒103-0004
東京都中央区東日本橋1丁目6番10号 K·Kビル5階 中村会計事務所
TEL 03-3864-6951　FAX 03-3864-6957

■八代高校関西同窓会 事務局:瀬戸　章子(高15回)
〒657-0015
神戸市灘区篠原伯母野山町2-2-1-408
TEL·FAX　078-861-9818

■八代高校岡山同窓会 事務局:吉田　高範(高18回)
〒703-8264
岡山市中区倉富7番地7　TEL·FAX 086-276-3979

■八代高校同窓会福岡支部 事務局:伊佐　学(高19回)
〒811-1353
福岡市南区柏原5-19-21　TEL 092-565-7908 FAX 092-566-3828

■八代高校同窓会熊本市支部 事務局:松岡　博之(高17回)
〒861-8043
熊本市戸島西1丁目3-15　TEL·FAX 096-367-1129

■八代高校大分同窓会 事務局:松本　宏次(高15回)
〒870-0848
大分市賀来北1丁目2-40　TEL 097-549-3386

◆住所変更時の連絡のお願い

事務局では会報発行の際、住所不明で返送される分を極力減らしたいと考えています。
住所変更の際には、事務局までご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。
尚、同級生がお亡くなりになったときには、事務局へご連絡いただきますようお願いいたします。

連絡先　〒866-0885　熊本県八代市永碇町856
熊本県立八代高等学校同窓会
TEL 0965-33-4138　FAX 0965-35-8463
メールアドレス　85jimukyoku@hachiko-dosokai.com

同窓会告知無料放送!!

幹事さ～ん！
同窓会の呼びかけ、メッセージをラジオから届けます！
平成9年10月に、八代にコミュニティーFM局エフエムやつしろ 76.5MHzが開局しました。
現在、12周年目を迎え地元の情報中心に発信しています。
・同窓会をしたいけど、呼びかける方法がわからない
・○○ちゃん、元気かな？
などのメッセージに最適です。

例）八高○回卒の皆さん
お待たせしました！同窓会を○月○日○時から○○で行います。
今回、先生方にもお声をかけていますので多くの皆さんのご参加待ってます！
詳しくは、幹事○○　まで

無料で承ります！
放送時間は当局に一任
詳しくは、エフエムやつしろ
TEL　0965-43-7651
メール　765@kappafm.com

エフエムやつしろ 76.5MHz JOZZ0AE-FM

編集後記

会報「道」2号をお届けします。今回は、岡山地区と愛知地区に続き大分地区より原稿をいただき、全国各地での同窓会活動の輪が広がりつつあります。同窓会報作成にたずさわっている者としてこれ以上の喜びはありません。全国の同窓生の皆様のホットな情報をお寄せ頂きますようお願い致します。
一方、学年同窓会の情報も着実に増えつつあります。若い方の学年同窓会の情報もぜひ!!（村山）

広報委員会

委員長　村山　忍（高14回）
委　員　岡田(瀬上)敏代（高19回）
〃　古閑雄一郎（高22回）
〃　岡村　洋文（高25回）
〃　吉住　一郎（高27回）
〃　一　親房（高28回）
〃　和久田　彰（高29回）
〃　田辺(前田)美紀（高43回）
〃　成尾　善明（高49回）

「平成23年度八代中学・八代高女・八代高校同窓会総会」

平成23年8月27日(土)
午後12時30分受付開始
総　会　13時30分から
懇親会　17時から
会　場　八代ホワイトパレス

来年度の大同窓会は、高29回生が担当します。
多くの皆さんの御参加をお待ちいたしております。

八代高校同窓会　検索
http://www.hachiko-dosokai.com/index.htm